

名張市における
令和6年度全国学力・学習状況調査

結果・分析と今後の取組

令和6年9月
名張市教育委員会

調査開始後16回目（18年目）を迎え、本年4月18日に、市内の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に行われた「全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」）」の結果について、本市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施するものです。なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。これらのことを十分考慮し、今後の名張市の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

○調査実施年月日 令和6年4月18日（木）

○調査実施児童生徒数 ※当日実施数

小学校（全6年生14小学校）：587名

中学校（全3年生5中学校）：599名

1 各調査項目の平均正答率等の状況

単位（%）

令和6年度 調査項目	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
名張市 ※1	68	63	55	48
全国比 ※2	100.4	99.4	94.7	91.4
R5との比較	-2.2	-1.4	-5.6	-10.5
三重県	67	62	57	53
全国	67.7	63.4	58.1	52.5

名張市 ≥ 全国・三重県

全国 > 名張市 ≥ 三重県
三重県 > 名張市 ≥ 全国

全国・三重県 > 名張市

※1 名張市平均 ……文科省から整数値（小数第一位を四捨五入）により結果提供

※2 全国比 ……全国平均を100としたときの名張市平均の割合（得点率）

<小学校>

本年度、国語は全国平均・三重県平均を上回りました。算数は、全国平均を下回りましたが、三重県平均は上回りました。また、前年度全国比との比較では、国語、算数ともにマイナスとなりました。

<中学校>

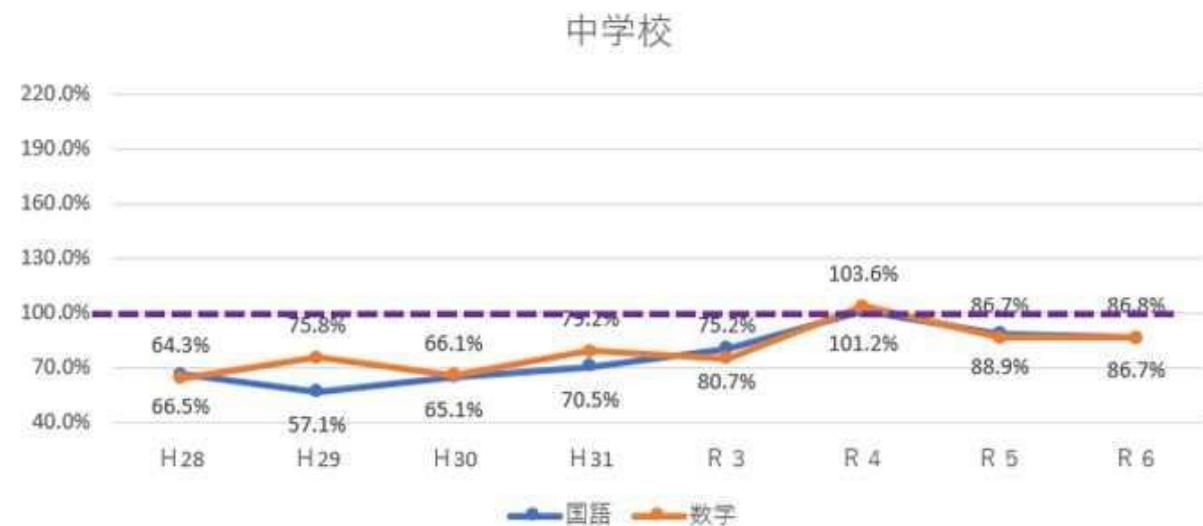
本年度、国語、数学は全国平均・三重県平均を下回りました。また、前年度全国比との比較では、国語、数学ともにマイナスとなりました。

<無解答率の状況> (経年変化)

本年度も、小学校、中学校ともすべての教科の無解答率が全国平均より低く、よい傾向が見られ、諦めずに粘り強く取り組む様子が見られます。

	調査項目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		調査項目
		名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	
小学校	国語	4.62	4.62	4.36	4.31	4.21	3.76	5.99	6.21	3.5	4.34	5.5	5.7	3.43	4.84	2.86	4.18	国語
	算数	7.84	7.37	7.02	6.42	9.48	7.93	5.47	2.66	2.39	2.64	3.12	3.49	2.66	3.43	2.42	3.37	算数
	理科	-	-	-	-	1.46	1.21	-	-	-	-	3.62	3.58	-	-	-	-	理科
中学校	国語	2.92	4.39	2.17	3.8	1.96	3.01	1.86	2.64	3.52	4.36	4.31	4.26	4.08	4.59	3.4	3.92	国語
	数学	9.45	14.69	8.88	11.71	8.33	12.61	5.79	7.31	8.39	11.15	11.14	10.75	8.34	9.62	9.76	11.25	数学
	英語	-	-	-	-	-	-	4.27	5.99	-	-	-	-	5.53	5.69	-	-	英語
	理科	-	-	-	-	3.36	5.04	-	-	-	-	4.03	3.44	-	-	-	-	理科

※全国比で表示(全国平均を100としたときの名張市平均の割合)

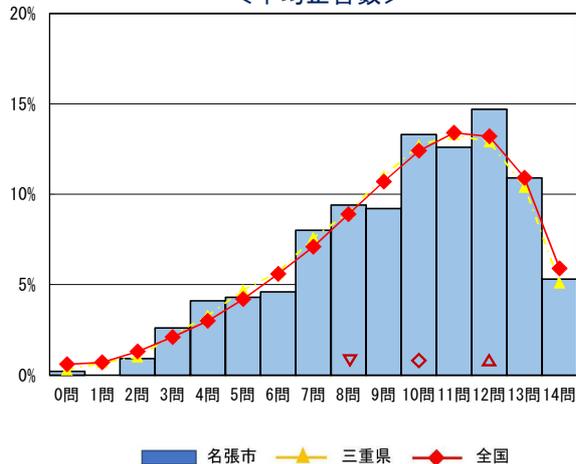


2 各調査項目の結果概要

平均正答率…全国より良い傾向を(+)、そうでない傾向を(-)
無解答率…全国より良い傾向を(-)、そうでない傾向を(+)で表しています

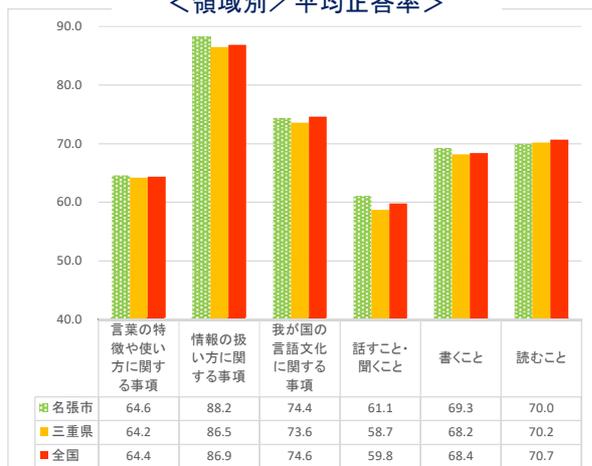
小学校		国語		
	名張市	全国	差	
平均正答率	68	67.7	0.3	
無解答率	2.86	4.18	-1.32	

＜平均正答数＞



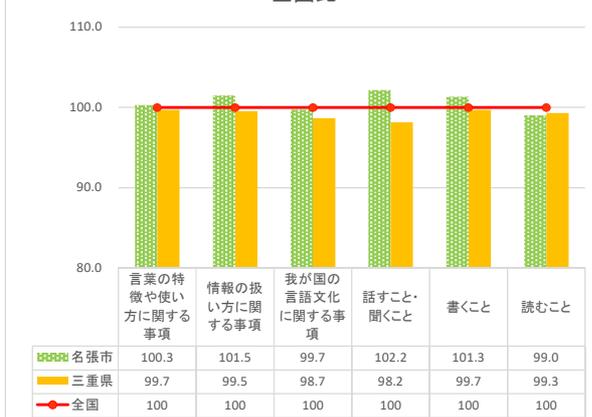
■ 名張市 ▲ 三重県 ◆ 全国

＜領域別／平均正答率＞



領域別で見ると、名張市では「情報の扱い方にに関する事項」が高く、次いで「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「話すこと・聞くこと」の順に低くなっている。

全国比



＜正答率が高かった問題の概要＞

2一(2)【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。

88.2%〔情報の扱い方〕〔選択式〕

2一(1)高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。

81.1%〔書くこと〕〔選択式〕

1二(1)オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する。

76.1%〔言葉の特徴や使い方〕〔選択式〕

＜正答率が低かった問題の概要＞

2三ア【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。(きょうぎ)

39.2%〔言葉の特徴や使い方〕〔短答式〕

＜問題の趣旨＞

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

1二(2)オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。

56.1%〔話すこと・聞くこと〕〔短答式〕

＜問題の趣旨＞

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

＜無解答率が高かった問題の概要＞

3三【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く

10.8%〔読むこと〕〔記述式〕

＜学習指導に当たって＞

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
ウ資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

○資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要である。
(1二(2))

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付けそれらを基に性格や考えなどを総合して判断したり、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしたりすることが大切である。

(3三)

令和6年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

国語① 学校の取り組みをオンラインで紹介し合う

① はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、ビマも楽しみにしていました。

② メールありがとうございます。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのようかいて、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んでいない分野の本を読みました。

③ さーかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

④ 説明がよくありませんね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれまして、私もクイズに参加しました。今まで読んでいない分野の本を読むことができました。

⑤ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑥ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出版されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【オンライン交流の様子の一部】

二 和田さんは、「和田さんのメモ」をよく読んで、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【和田さんのメモ】

<p>村木さんが知りたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書委員会の取り組み ○読書イベント ・月に1回 ・クイズなど 	<p>自分が伝えたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アイデア給食 ・年に2回 ・自分たちが考えたことだけ
<p>これは伝えたい</p>	<p>地いさならでの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間 ・海の生き物の調査 ○すなはまの清そう活動 ・学期に1回
<p>質問されたら答える</p>	<p>○言葉クラブの演そう会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たんどの楽器は木さん ・地いさの行事に参加
<p>用意するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズが書かれたカード ・海の生き物の写真 	

- 1 おたがいの学校の取り組みのよい点を比べて、伝えることを明確にした。
- 2 おたがいの学校の取り組みの困難点を比べて、伝えることを明確にした。
- 3 相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にした。
- 4 自分が知りたいことを取り入れて、優先して聞くことを明確にした。

一 和田さんは、「和田さんに届いたメールの内容」を受けて、しようかする内容を、次の「和田さんのメモ」のように整理しました。和田さんは、どのように整理しようか、その説明として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【和田さんに届いたメールの内容】

あて先 △△△@△△△△△.jp
件名 オンライン交流について

海風小学校 和田 みなみさん

はじめまして。深緑小学校の村木です。わたしの学校は、全校で105人います。学校の趣には、参加が広がっています。今、わたしががんばろうと思っていることは、図書委員として、本が好きな子を増やすことです。オンライン交流では、和田さんの学校の図書委員会の取り組みを教えてください。よろしくお願ひします。

深緑小学校 村木 おかろ

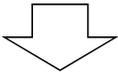
【1】海風小学校の和田さんの学校では、深緑小学校と学校の取り組みをオンラインでしようかしようか、と話し合いました。和田さんは、深緑小学校の村木さんとうちが合おうかしようか、と話し合いました。次は、村木さんから事前に「和田さんに届いたメールの内容」です。これをもよよく読んで、あとの問いに答えましよう。

正答率 56.1%
無解答率 0.0%
【選択式】

問題の趣旨

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

(1 二 (2))



<学習指導に当たって>

資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要である。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切である。

本設問では、和田さんが、「よく分かりました。おもしろそうですね。」という村木さんの発言を受けて、相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導することが重要である。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けると効果的である。

⑧ 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。ぜひやってみます。

⑨ 次に、私たちの学校の給食についてしようかしたいのですが、いいですか。

⑩ お願いします。

⑪ アイデア給食というものがあります。年2回、自分たちが考えたことだけが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったことだけが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑫ みんなで考えたことだけが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬ みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑭ はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いことですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮ えっど...【和田さんのメモ】を見返す、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。

⑯ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つわしく教えてください。

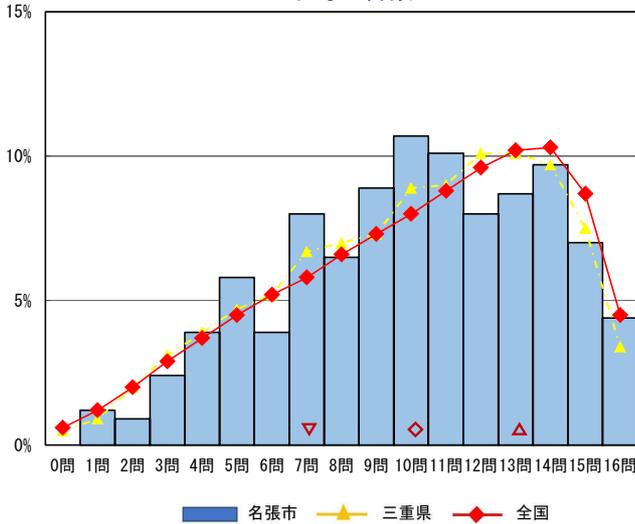
～（交流が続く）～

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

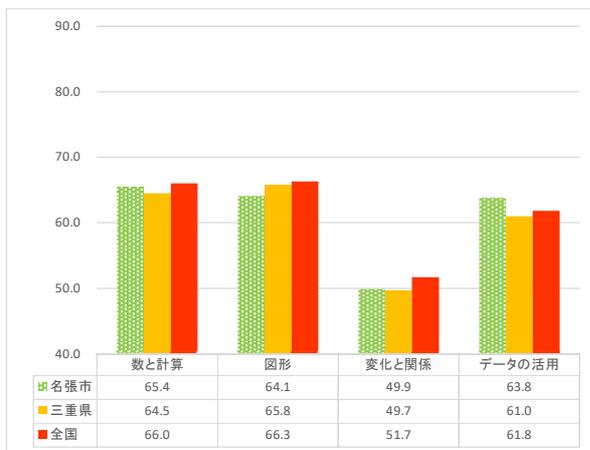
【令和6年度全国学力・学習状況調査「報告書」より】

小学校		算数		
	名張市	全国	差	
平均正答率	63	63.4	-0.4	
無解答率	2.42	3.37	-0.95	

＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞



領域別で見ると、名張市では「数と計算」が高く、次いで、「図形」「データの活用」「変化と関係」の順に低くなっている。



＜正答率が高かった問題の概要＞

- 1 (2) はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。
90.3% [数と計算] [選択式]
- 3 (1) 作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ。
84.8% [図形] [選択式]

＜正答率が低かった問題の概要＞

- 4 (3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。
28.4% [変化と関係] [記述式]

＜問題の趣旨＞

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

- 3 (3) 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。
30.8% [図形] [短答式]

＜問題の趣旨＞

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- 5 (3) 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。
9.5% [データの活用] [記述式]

＜学習指導に当たって＞

■学習指導要領における領域・内容 [第5学年] C 変化と関係

(2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。ア 次のような知識及び技能を身に付けること。(ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

○本設問では、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問うている。ここでは、かなたさんとほのかさんのどちらが速いかを判断するために、かなたさんとほのかさんが歩いた道のりと、かかった時間に着目し、道のりが等しい場合には時間が短いほど速さが速いと考えたり、それぞれの速さを求めたりすることが必要である。

(4 (3))

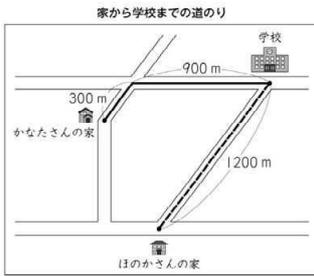
■学習指導要領における領域・内容 [第5学年] B 図形

(4) 立体図形の体積に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。ア 次のような知識及び技能を身に付けること。(イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア) 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

○本設問では、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかを問うている。ここでは、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一辺の長さが、ボールの直径の長さや等しくなることを捉えることが必要である。(3 (3))

算数 4 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
 家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
 それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
 下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

問題の趣旨

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。(4(3))

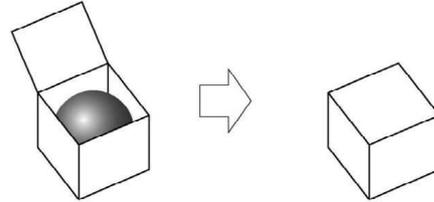
正答率 28.4%
 無解答率 1.0%
【記述式】

算数 3 図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し立体図形について考察すること(見取図・展開図)

(3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。

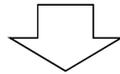


この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。
 ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

問題の趣旨

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係をつかえ、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。(3(3))

正答率 30.8%
 無解答率 8.5%
【短答式】



<学習指導に当たって>

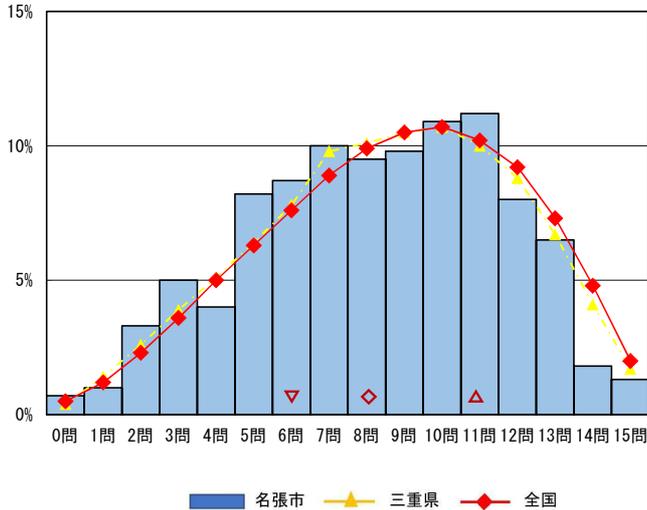
4(3) 場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、二人の歩く速さの比べ方を考察する活動が考えられる。その際、二人の歩いた道のりとかかった時間を確認し、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明できるようにすることが大切である。このとき、道のりが等しいことだけでなく、かかった時間が短いことも説明できるようにすることも大切である。また、道のり÷時間を用いて速さを求めることで二人の歩く速さを確認できるようにすることも大切である。

3(3) について、身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、本設問のように、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べる活動が考えられる。その際、立方体を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径の長さは球の直径の長さや等しく、立方体の一辺の長さや等しいことを理解できるようにすることが大切である。また、立方体の体積は、一辺の長さを測ることによって、(一辺)×(一辺)×(一辺)の式で求められることを理解できるようにすることも大切である。

【令和6年度全国学力・学習状況調査「報告書」より】

中学校		国語	
	名張市	全国	差
平均正答率	55	58.1	-3.1
無解答率	3.40	3.92	-0.5

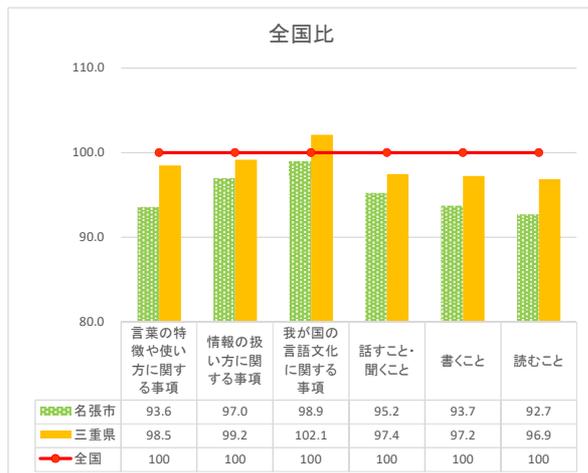
<平均正答数>



<領域別/平均正答率>



領域別で見ると、名張市では「我が国の言語文化に関する事項」が高く、次いで、「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

- 3一 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する。
80.6% [書くこと] [選択式]
- 4三 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
74.8% [我が国の言語文化] [選択式]

<正答率が低かった問題の概要>

- 2一 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。
33.4% [読むこと] [選択式]

<問題の趣旨>

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

- 2四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。
38.2% [読むこと] [記述式]

<問題の趣旨>

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

- 1四 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。
39.9% [読むこと] [選択式]

<問題の趣旨>

話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

<無解答率が高かった問題の概要>

- 3四 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。
11.4% [書くこと] [記述式]

<学習指導に当たって>

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。《精査・解釈》

○アを選んだ場合は、筆者が、葉の形を表す言葉を「二次元的」か「三次元的」かという点に着目してグループ分けし、前者のグループには「多様性」、後者のグループには「普遍性」という特徴があると述べていることを取り上げて、まとめて書く必要がある。

イを選んだ場合は、筆者が、数学や物理学などと生物学とを対比して、数学や物理学は普遍性の学問で、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問であると述べていることを取り上げて、まとめて書く必要がある。(2四)

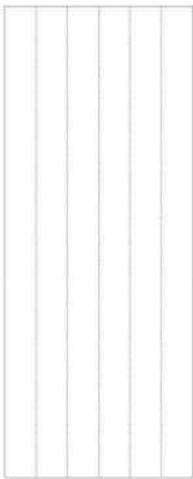
■学習指導要領における内容

〔第2学年〕思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。《精査・解釈》

○「図さまざまな形の葉」が、読み手が第一・二段落を受けて、実際の葉の形を思い浮かべたり、実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けたりする際に、それを助ける役割をもつことを捉えることが必要である。(2一)

国語 1 話し合いをする（「フィルターバブル現象」）



※ 左の枠は、下書きに使うことができます。解答は必ず解答用紙に書きます。

条件 1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これらからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。
条件 2 「話し合いの一幕」の裏の発言と結びつけることができるように書くこと。

四 「話し合いの一幕」の山岡さんの最後の発言を基として、あなたなりの考えを述べます。次の条件 1 と条件 2 にしたがって、実際に話すように書きなさい。
これを踏まえて文章を直したいときは、二本線で消したり行間に行間を空けたりしても構いません。

私は、この前、インターネットで相書作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、相書作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見つけられました。

たくさん本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、無料ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっていると感じていませんか。

そうですね、言われてみれば、相書作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。【四】のこのあたりにはいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

私は、図書館や書店で本を選んで、読みたい本を見かけるのは時間がかかりますが、本棚を眺めると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がる感じています。

図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が届くような状態にはならないでしょうか。

そうですね、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがあります。そこで紹介されている本は、本を探している人の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶようになりますか。

フィルターバブル現象
自分の好みの情報だけが選ばれる。多様な価値観から隔離され「手くなく事柄。

【解説】
インターネットで検索したり閲覧したりした情報が、検索した検索履歴などに記憶され、解されることで、その利用者の好み傾向が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないや判断された情報は、はじかれてしまう。このように、情報の取り出しがより多様な意味に届れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報や優先的に表示されるようになる。

皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、地味になっている情報に相手本々の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

【解説】の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

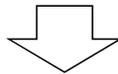
身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

1 山岡さんたちは「話し合いの一幕」の山岡さんの最後の発言を基として、あなたなりの考えを述べます。次の条件 1 と条件 2 にしたがって、実際に話すように書きなさい。
これを踏まえて文章を直したいときは、二本線で消したり行間に行間を空けたりしても構いません。

問題の趣旨

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。（1 四）

正答率 39.9%
無解答率 6.3%
【記述式】



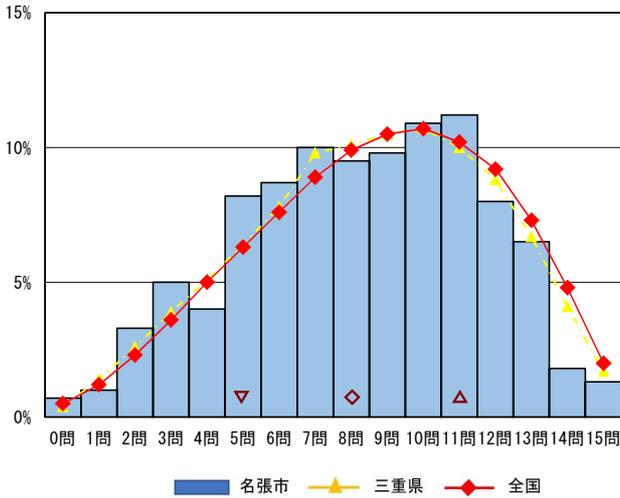
<学習指導に当たって>

話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて自分の考えをまとめる話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。そのためには、話し合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができるように指導することが大切である。また、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切である。例えば、グループで話題を決めて話し合い、話し合ったことを基に自分の考えをまとめる学習活動が考えられる。その際、話し合いの序盤で話題について共通理解したり、発言がある程度出された段階でそれらの内容を整理したりするなど、小学校で学習したことを生かして建設的に話し合うことが重要である。その上で、自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を整理して述べるように指導することが大切である。また、自分の考えが話し合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかなどを振り返ることも効果的である。

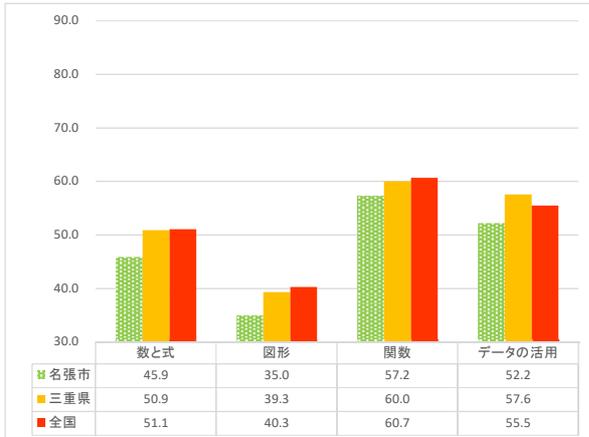
【令和6年度全国学力・学習状況調査「報告書」より】

中学校		数学	
	名張市	全国	差
平均正答率	48	52.5	-4.5
無解答率	9.76	11.25	-1.49

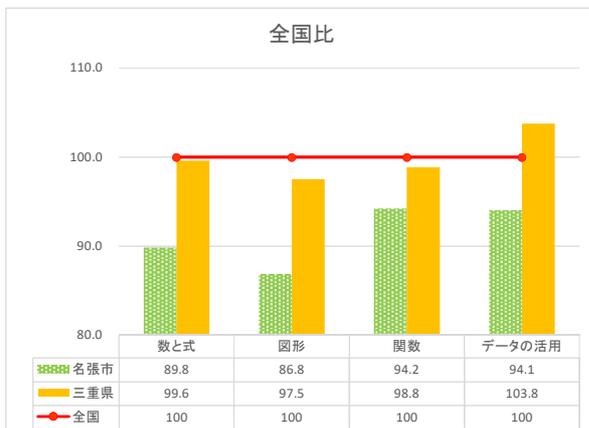
<平均正答数>



<領域別/平均正答率>



領域別で見ると、名張市では「関数」が高く、次いで「データの活用」「数と式」「図形」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

6 (1) 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求め。
88.8% [数と式] [短答式]

8 (1) ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値を表すものを選ぶ。
81.9% [関数] [選択式]

<正答率が低かった問題の概要>

8 (2) 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストープの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。
10.1% [関数] [記述式]

<問題の趣旨>

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る。

7 (2) 車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する。
18.3% [データの活用] [記述式]

<問題の趣旨>

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る。

<無解答率が高かった問題の概要>

9 (1) 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する。
27.6% [図形] [記述式]

<学習指導に当たって>

■学習指導要領における領域・内容
[第2学年]C関数

(1)一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ)一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

○ストープを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いを調べるために、「用いるもの」として、「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ、又は、「強」の場合の式と「弱」の場合の式のどちらかを選択し、その「用い方」を数学的に説明することを求めている。その際、「用い方」として、18Lの灯油を使い切ったときの灯油の残量が0Lであることから、式を用いる場合は、二つの式に $y=0$ を代入してそれらの式から x の値の差を求め、グラフを用いる場合は、二つのグラフの y 座標が0である点に着目して x の値の差を求め、ことや2点間の距離を読み取ることを記述する必要がある。(8(2))

数学 8 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること（ストーブ）

- 8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

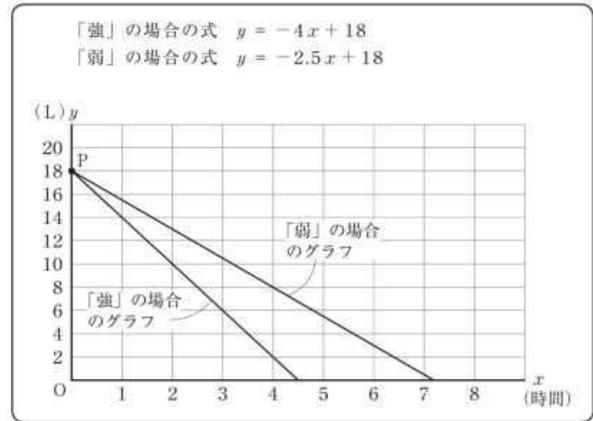
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係調べることになりました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量



- (2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

正答率 10.1%

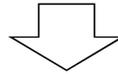
無解答率 15.9%

【記述式】

問題の趣旨

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

(8 (2))



<学習指導に当たって>

様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いはおよそ何時間になるかを求める方法について、式やグラフをどのように用いればよいかを説明する場面を設定することが考えられる。このとき、式を用いる場合とグラフを用いる場合について、例えば、次のような説明ができるようにすることが大切である。

〈式を用いる場合〉「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求めればよい。

〈グラフを用いる場合〉「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求めればよい。

このような説明ができるようにするためには、例えば、使用時間の違いを求めた後にその方法を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げ、問題解決の見通しを共有した場面や使用時間の違いを求める過程を共有した場面を振り返りながら、十分な説明にしていける場面を設定することが考えられる。

【令和6年度全国学力・学習状況調査「報告書」より】

3-① 児童生徒質問調査結果

「児童生徒質問調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。

ここでは、調査の中からいくつかの質問事項を取り上げ、名張市平均を前回調査の令和5年度と比較したときの増減を矢印で、全国平均と比較したときの差を数値で示しています。

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

質問事項		年度	R5	増減	R6
学習習慣等	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	19.9	↘	16.2
		全国	25.6		23.5
		全国との差	-5.7		-7.3
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	19.2	↘	13.5
		全国	24.7		21.5
		全国との差	-5.5		-8.0
	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか(2時間以上) 【前回調査令和4年度】	名張市	52.5	↗	53.9
		全国	50.2		49.2
		全国との差	+2.3		+4.7
	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除のぞきます)(2時間以上) 【前回調査令和4年度】	名張市	32.9	↗	37.3
		全国	32.5		33.8
		全国との差	+0.4		+3.5
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	21.5	↗	25.0
		全国	23.8		24.1
		全国との差	-2.3		+0.9
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	48.8	↘	44.3
		全国	40.4		39.2
		全国との差	+8.4		+5.1
算数	算数の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	27.9	↗	33.3
		全国	34.8		34.0
		全国との差	-6.9		-0.7
	算数の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	51.8	↘	47.7
		全国	45.2		44.9
		全国との差	+6.6		+2.8
理科	理科の勉強は好きですか(当てはまる) 【前回調査令和4年度】	名張市	43.0	↗	43.3
		全国	49.3		53.1
		全国との差	-6.3		-9.8
英語	英語の勉強は好きだ(当てはまる)	名張市	35.6	↗	35.9
		全国	38.6		38.2
		全国との差	-3.0		-2.3
	英語の勉強は大切だ(当てはまる)	名張市	71.7	↗	72.7
		全国	69.8		71.2
		全国との差	+1.9		+1.5

質問事項		年度		増減	R6
		R5			
学習習慣等	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	26.2	↗	26.7
		全国	33.7		31.7
		全国との差	-7.5		-5.0
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	29.2	↘	26.4
		全国	40.0		36.2
		全国との差	-10.8		-9.8
	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか(2時間以上) 【前回調査令和4年度】	名張市	56.5	↗	56.7
		全国	50.3		48.9
		全国との差	+15.2		+7.8
	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除のぞきます)(2時間以上) 【前回調査令和4年度】	名張市	57.9	↗	59.3
		全国	52.0		55.9
		全国との差	+9.3		+3.4
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	21.1	↗	21.5
		全国	23.6		24.4
	全国との差	-2.5		-2.9	
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	26.5	↗	36.7
全国		30.4		32.0	
全国との差	-3.9		+4.7		
数学	数学の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	30.9	↗	34.9
		全国	29.1		29.4
	全国との差	+1.8		+5.5	
	数学の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	43.2	↗	48.7
全国		33.9		35.1	
全国との差	+9.3		+13.6		
理科	理科の勉強は好きですか(当てはまる) 【前回調査令和4年度】	名張市	28.5	↘	26.4
		全国	32.2		33.3
	全国との差	-3.7		-6.9	
	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている(当てはまる) 【前回調査令和4年度】	名張市	17.5	↗	19.8
		全国	22.3		27.4
	全国との差	-4.8		-7.6	
自然の中や日常生活、理科の授業において、理科のに関する疑問を持ったり、問題を見いだしたりすることがありますか (当てはまる)	名張市	-	-	25.4	
	全国	-		32.5	
全国との差	-		-7.6		
英語	1,2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う(当てはまる)	名張市	19.8	↘	15.3
		全国	26.2		28.1
	全国との差	-6.4		-12.8	
	1,2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う(当てはまる)	名張市	28.2	↘	27.2
全国		42.9		44.0	
全国との差	-14.7		-16.8		

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

質問事項		年度	R5	増減	R6
授業改善等	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる)	名張市	30.5	↘	28.8
		全国	30.5		29.5
		全国との差	0.0		-0.7
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか。(当てはまる)	名張市	39.7	↘	37.9
		全国	38.6		41.4
		全国との差	+1.1		-3.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。(当てはまる)	名張市	30.1	↗	32.4
		全国	31.0		31.9
		全国との差	-0.9		+0.5
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか(当てはまる)	名張市	22.9	↘	19.1
		全国	24.8		25.9
		全国との差	-1.9		-6.8
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(当てはまる)	名張市	26.4	↗	35.0
		全国	31.8		36.3
		全国との差	-5.4		-1.3
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか(当てはまる)	名張市	43.5	↗	45.4
		全国	44.3		47.3
		全国との差	-0.8		-1.9
ICT	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	92.8	↘	88.4
		全国	86.3		85.5
		全国との差	+6.5		+2.9
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びに使う時間は除く)(全く使っていない)	名張市	31.7	↗	33.7
		全国	26.4		25.9
		全国との差	+5.3		+7.8
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	85.7	↘	79.2
		全国	83.7		83.4
		全国との差	+2.0		-4.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	40.2	↘	36.4
		全国	38.1		39.7
		全国との差	+2.1		-3.3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	53.5	↗	53.8	
	全国	55.1		56.1	
	全国との差	-1.6		-2.3	

質問事項		年度	R5	増減	R6
授業改善等	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる)	名張市	33.9	↘	27.0
		全国	30.4		27.2
		全国との差	+3.5		-0.2
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか(当てはまる)	名張市	32.6	↘	31.7
		全国	34.3		36.4
		全国との差	-1.7		-4.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(当てはまる)	名張市	27.0	↘	25.7
		全国	23.1		27.1
		全国との差	+3.9		-1.4
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか(当てはまる)	名張市	19.3	↘	17.2
		全国	21.9		22.2
		全国との差	-2.6		-5.0
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(当てはまる)	名張市	28.9	↗	30.9
		全国	28.4		35.5
		全国との差	+0.5		-4.6
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか(当てはまる)	名張市	47.2	↘	46.8
		全国	43.8		49.8
		全国との差	+3.4		-3.0
ICT	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	96.9	↗	97.2
		全国	87.5		89.0
		全国との差	+9.4		+8.2
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びに使う時間は除く)(全く使っていない)	名張市	24.0	↗	24.8
		全国	34.3		28.4
		全国との差	-10.3		-3.6
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	81.2	—	81.2
		全国	78.6		79.1
		全国との差	+2.6		+2.1
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	34.6	↗	35.5
		全国	34.7		34.9
		全国との差	-0.1		+0.6
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	55.3	↘	54.2
		全国	54.8		55.3
		全国との差	+0.5		-1.1

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度			
		R5	増減	R6	
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	61.9	↘	57.8
		全国	60.8		60.6
		全国との差	+1.1		-2.8
	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	44.1	↘	40.0
		全国	42.6		43.4
		全国との差	+1.5		-3.4
	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う(当てはまる)	名張市	59.3	↘	52.3
		全国	49.9		48.8
		全国との差	+9.4		+3.5
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思う(当てはまる)	名張市	48.9	↘	46.9
全国		43.7		47.3	
全国との差		+5.2		-0.4	
人が困っているときは、進んで助けていますか(当てはまる)	名張市	46.3	↘	45.8	
	全国	45.6		46.0	
	全国との差	+0.7		-0.2	
友だち関係に満足している(当てはまる)	名張市	66.9	↘	60.8	
	全国	63.2		62.4	
	全国との差	+3.7		-1.6	
学校に行くのは楽しいと思う(当てはまる)	名張市	45.4	↘	41.2	
	全国	49.8		47.2	
	全国との差	-4.4		-6.0	
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(当てはまる)	名張市	89.6	↘	86.6
		全国	82.6		79.5
		全国との差	+7.0		+7.1
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	80.4	↘	71.7
		全国	75.3		71.1
		全国との差	+5.1		+0.6
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる)	名張市	28.6	↘	27.5	
	全国	33.4		30.2	
	全国との差	-4.8		-2.7	
地域貢献	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(当てはまる)	名張市	34.1	↗	35.5
		全国	33.2		36.8
		全国との差	+0.9		-1.3
読書習慣	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)(0~25冊)	名張市	37.8	↗	38.0
		全国	33.4		35.9
		全国との差	+4.4		+2.1

質問事項		年度	R5	増減	R6
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	39.1	↘	33.9
		全国	39.4		36.1
		全国との差	-0.3		-2.2
	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	36.1	↗	38.9
		全国	37.2		40.4
		全国との差	-1.1		-1.5
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う(当てはまる)	名張市	45.1	↘	42.6
		全国	40.0		44.2
		全国との差	+5.1		-1.6
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う(当てはまる)	名張市	48.9	↘	38.9
		全国	43.7		35.5
		全国との差	+5.2		+3.4
	人が困っているときは、進んで助けていますか(当てはまる)	名張市	36.1	↘	31.0
		全国	38.4		38.3
		全国との差	-2.3		-7.3
	友だち関係に満足している(当てはまる)	名張市	56.3	↘	53.7
		全国	55.3		55.0
		全国との差	+1.0		-1.3
	学校に行くのは楽しいと思う(当てはまる)	名張市	43.0	↘	39.9
		全国	43.3		43.5
		全国との差	-0.3		-3.6
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(当てはまる)	名張市	80.0	↘	78.0
		全国	80.3		77.5
		全国との差	-0.3		+0.5
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	68.9	↗	69.0
		全国	71.7		68.6
		全国との差	-2.8		+0.4
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる)	名張市	30.0	↘	28.8
		全国	31.2		28.7
		全国との差	-1.2		+0.1
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(当てはまる)	名張市	20.7	↗	24.6	
	全国	19.6		26.4	
	全国との差	+1.1		-1.8	
読書習慣	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)(0~25冊)	名張市	38.3	↗	42.4
		全国	35.3		39.6
		全国との差	+3.0		+2.8

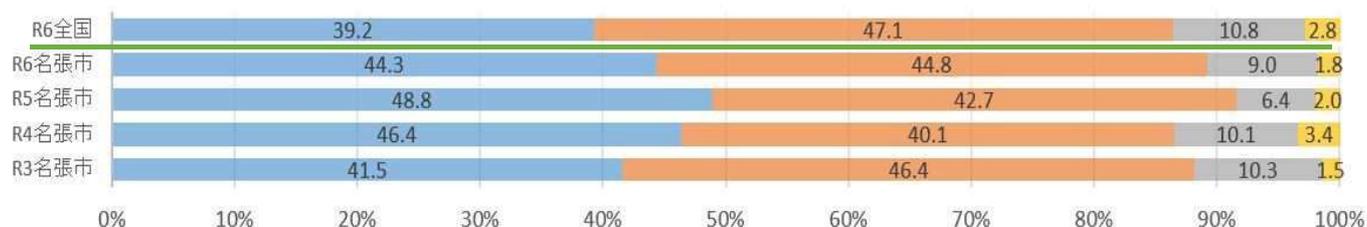
学校では

わかる授業のための授業改善に取り組んでいます。

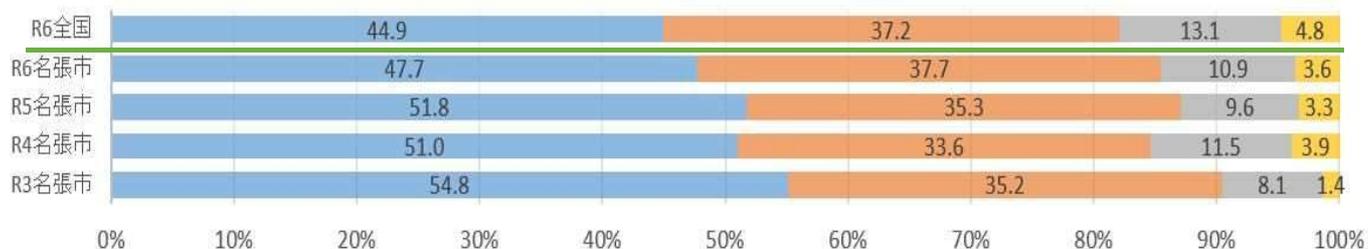
質問項目：授業の内容はよく分かりますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる
■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

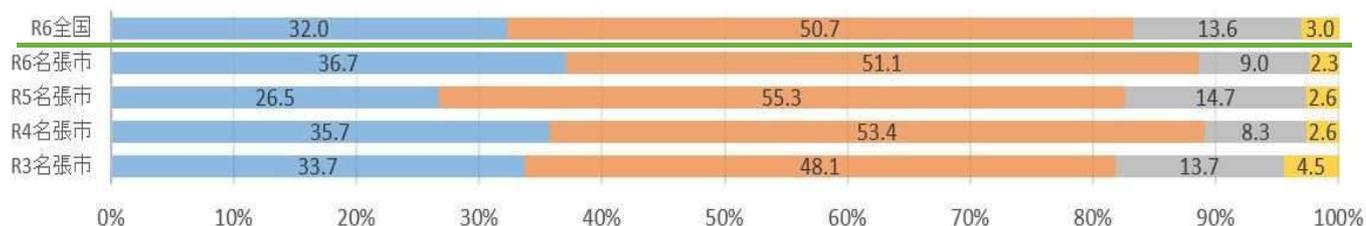
小学校国語



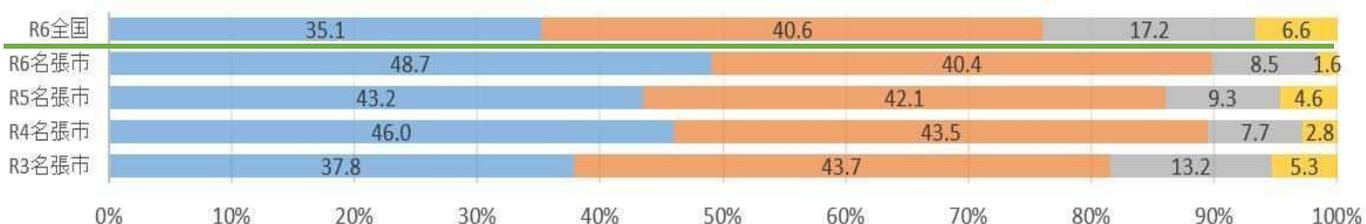
小学校算数



中学校国語



中学校数学



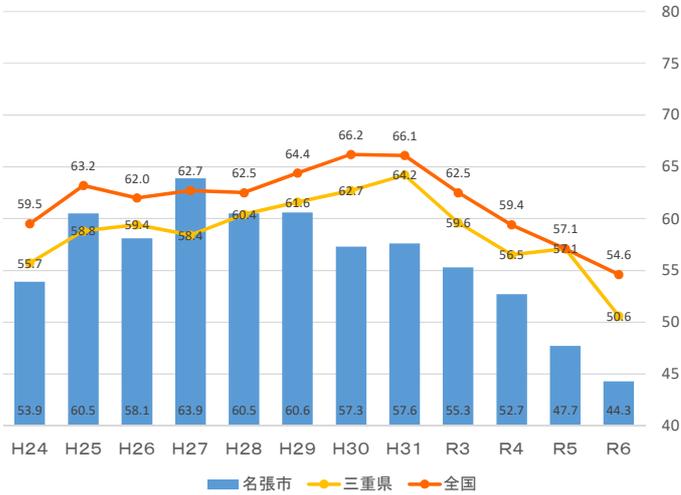
本市は肯定的な回答割合が、すべての教科で80%を越え、全国との比較においても高い結果がみられます。一方で、よく分からないと回答している児童生徒もいることから、子どもたちが「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」をより一層実感できる授業づくりに努め、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図り、学力向上につなげます。

家庭では

家庭学習の習慣化に努める必要があります。

質問項目：1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(1時間以上)※学習塾、家庭教師含む

小学校 平日勉強



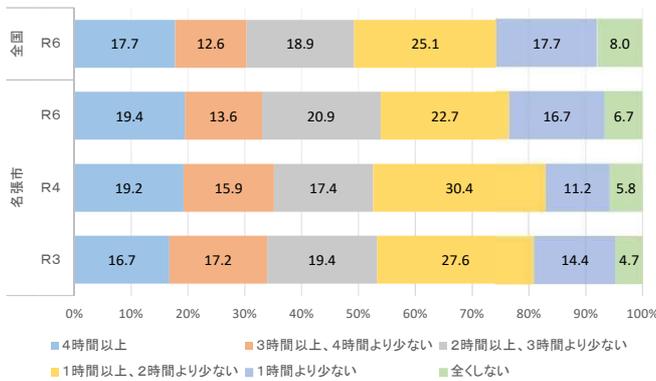
中学校 平日勉強



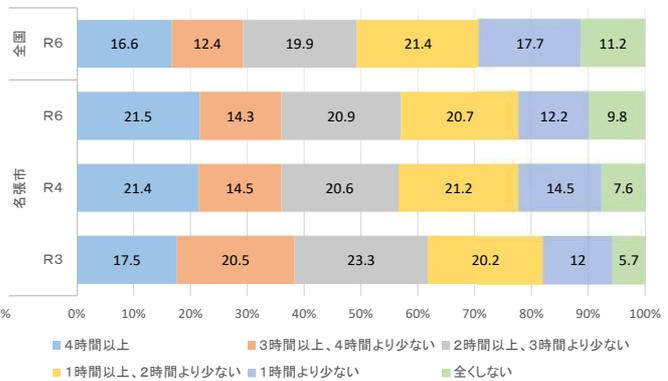
質問項目：1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（携帯電話等を使ったゲームも含む）をしますか。

※R5の調査には含まれていない

小学校 平日ゲーム



中学校 平日ゲーム



家庭学習が「1時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国平均より低い傾向が続いています。一方で、テレビゲームをする時間は全国平均より高い傾向が見られます。

各学校では、適切な時間のあり方について、様々な工夫を行い、中学校区でも小中学校で共通した取組も展開されています。

家庭学習は、自ら学ぶ力の育成や学習内容の定着を図るために必要です。児童生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、学校と家庭が共通理解し、協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

3-② 児童生徒質問調査結果と教科の平均正答率との関係<クロス集計>

「児童生徒質問調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。

ここでは、「児童生徒質問調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

グラフの見方

<例示>

質問事項

○国語の授業の内容はよく分かりますか。

<グラフ内の数値は(%)>

同じ質問に対し、
ページの左半分は小学校
右半分は中学校のグラフです。

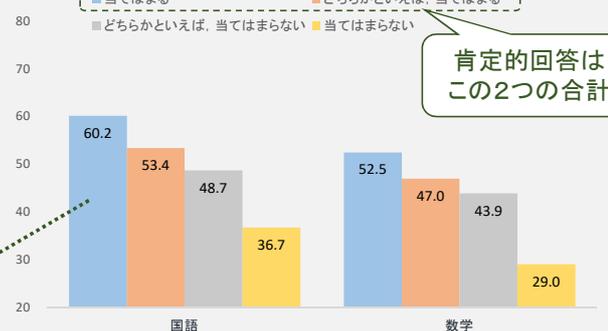
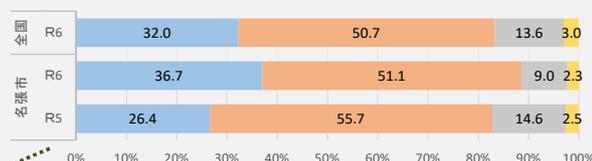
中学校

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢別の割合を、そのまま表しています。R6名張市平均(中段)を、全国平均(上段)、R5名張市平均(下段)とそれぞれ比較することができます。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」(当てはまる)と回答した生徒は、
全国で 32.0%
名張市で 36.7% です。

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢と、平均正答率との関係を、クロス集計しています。

右のグラフで、「当てはまる」と回答した生徒の、国語の平均正答率は、
名張市で 60.2% です。



肯定的回答はこの2つの合計

「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、「国語」で見ると、
「当てはまる」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、60.2%、
「当てはまらない」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、36.7%で
23.5%の開きがあり、
「国語の授業の内容はよく分かる」と回答している生徒ほど、
「国語」の調査問題の正答率も高いということがわかります。

同様に他の調査問題も見ると、「数学」では、32.8%の開きがあり、
「肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い」という傾向が、顕著に表れています。

※いずれのグラフにも無回答率は掲載していません。

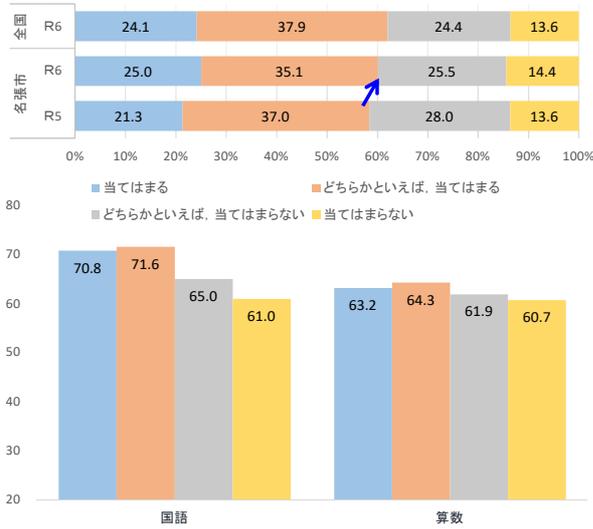
また、質問によっては、回答項目(時間帯等)が多いため、傾向がわかる回答項目(時間帯)に関してのみ、掲載しています。そのため、合計数値が100%になっていない場合があります。

※以下の集計値/グラフは、4月18日に教科に関する調査(国語、数学)を一つ以上実施し、かつ、児童生徒質問調査を実施した児童生徒を対象として集計した値です。

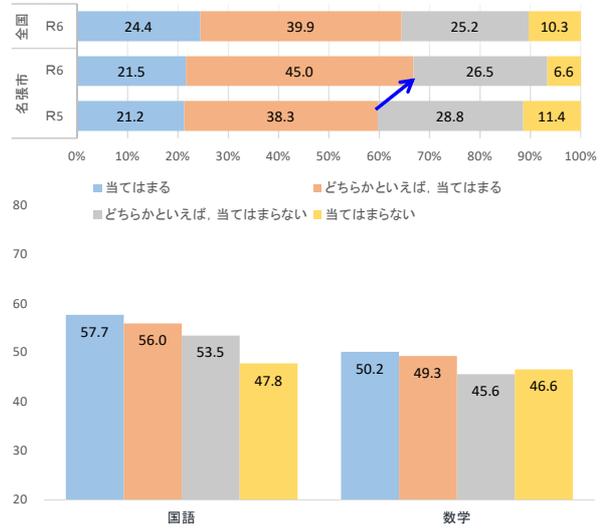
(1) 学校教育に関すること

①国語の勉強は好きですか。

小学校



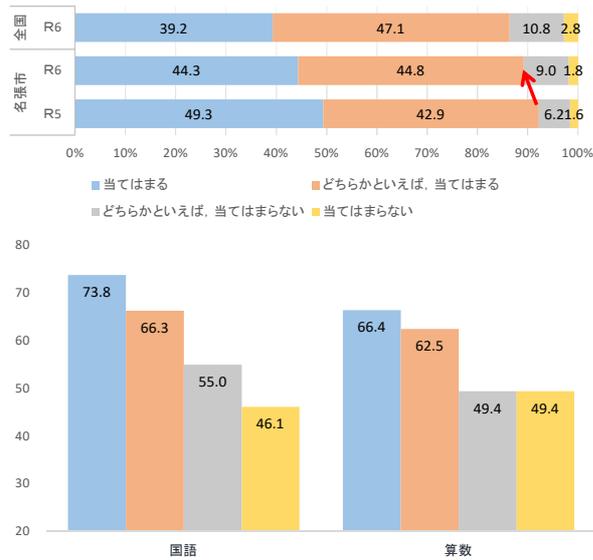
中学校



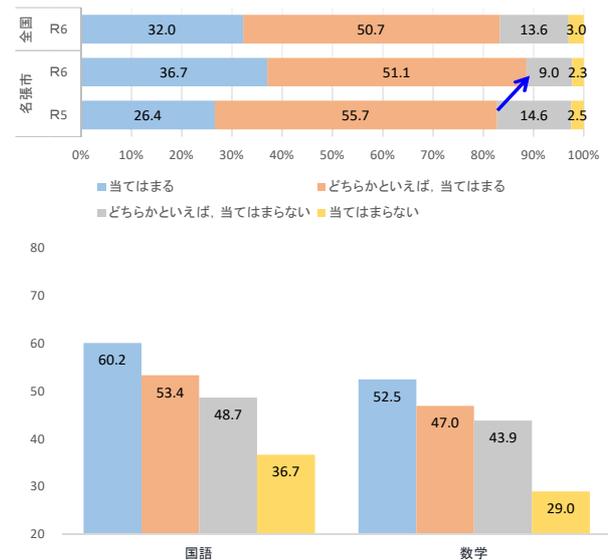
肯定的回答が全国と比べると、小学校が低く、中学校が高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも増加しています。

②国語の授業の内容はよくわかりますか。

小学校



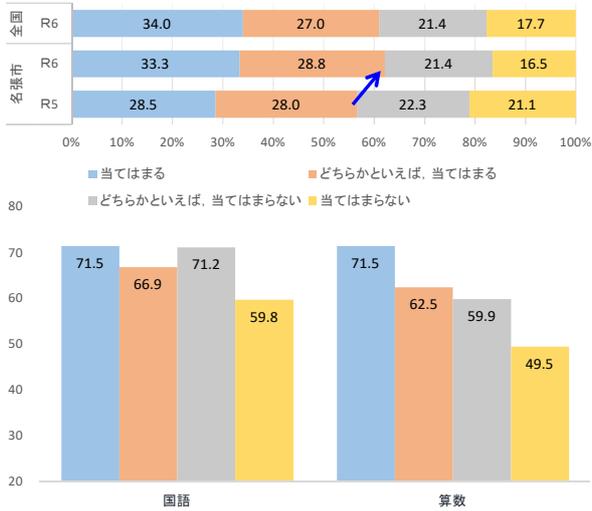
中学校



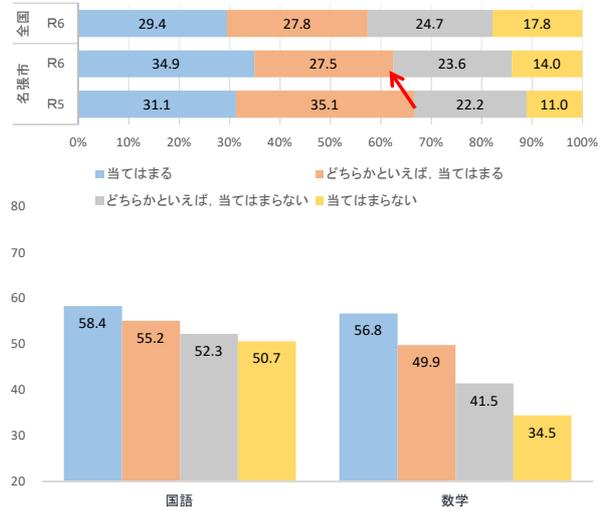
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は減少し、中学校では増加しています。

③算数・数学の勉強は好きですか。

小学校



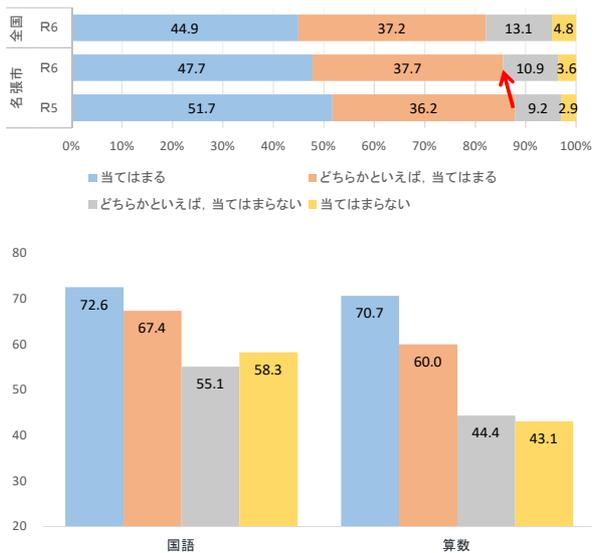
中学校



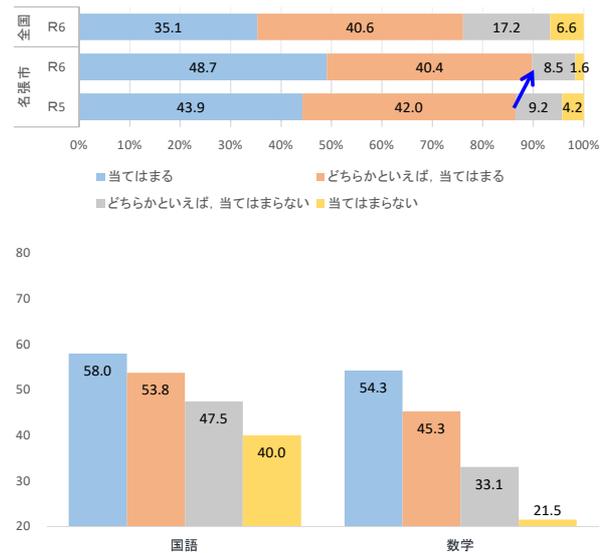
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校では高い結果が見られます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

④算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



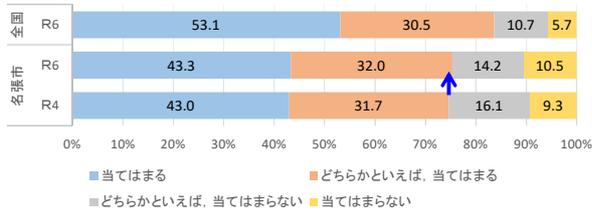
中学校



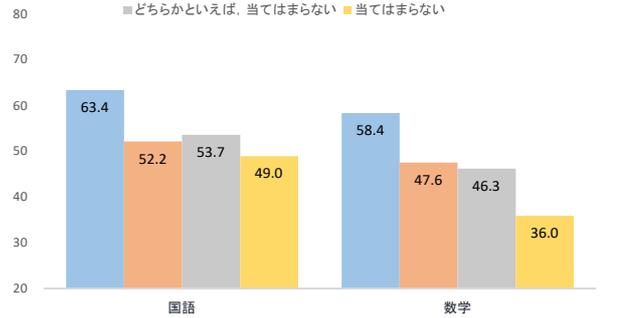
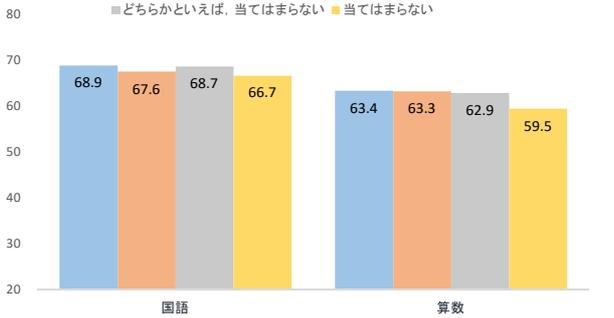
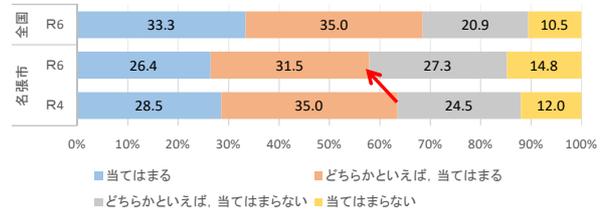
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は減少し、中学校では増加しています。

⑤理科の勉強は好きですか。

小学校



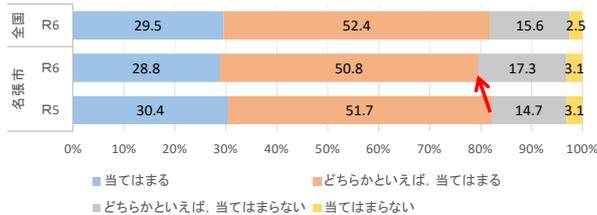
中学校



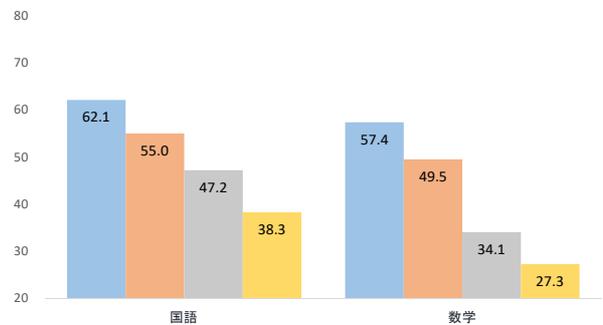
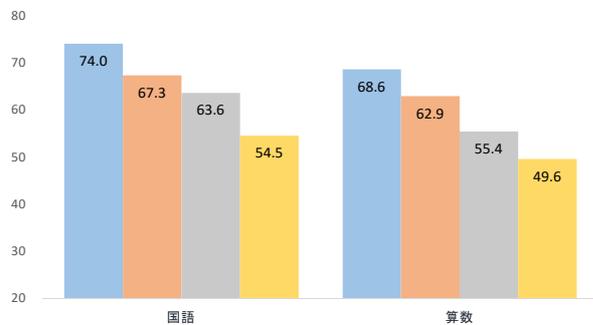
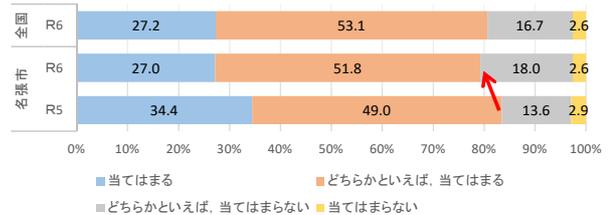
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校とも低い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

⑥ 5年生（中学1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

小学校



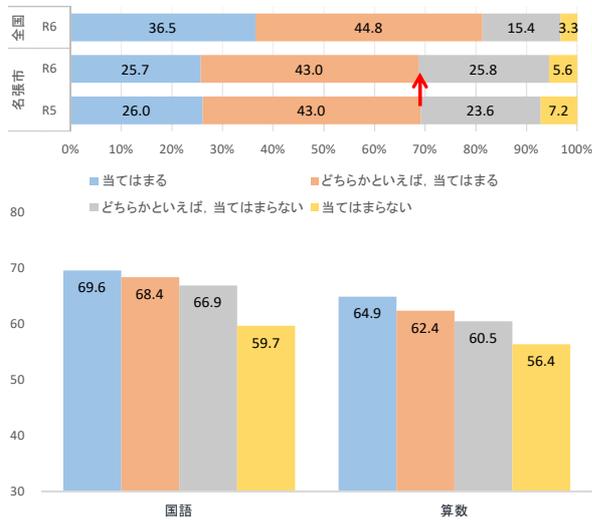
中学校



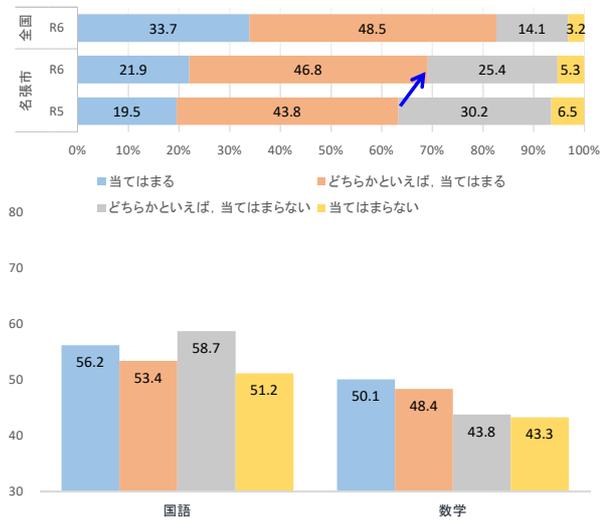
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも減少しています。

⑦ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

小学校



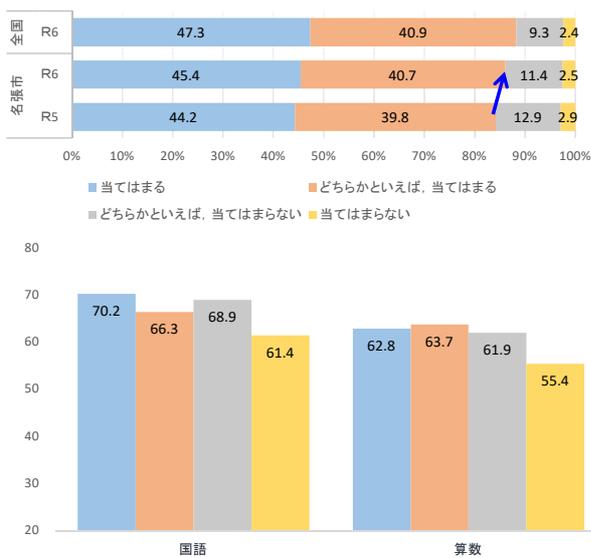
中学校



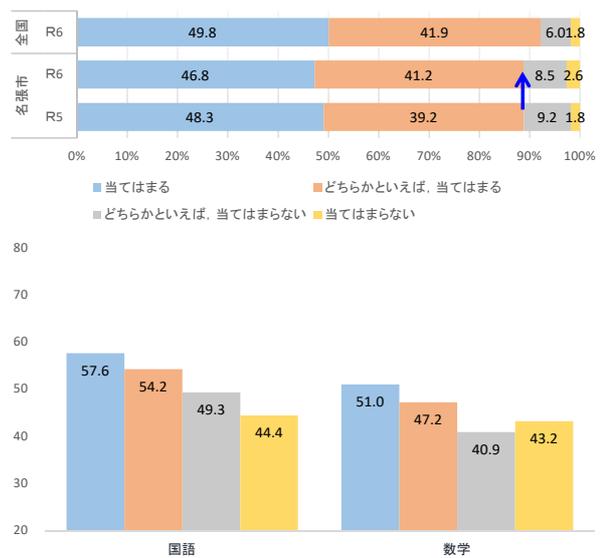
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると小学校は減少し、中学校で増加しています。

⑧ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

小学校



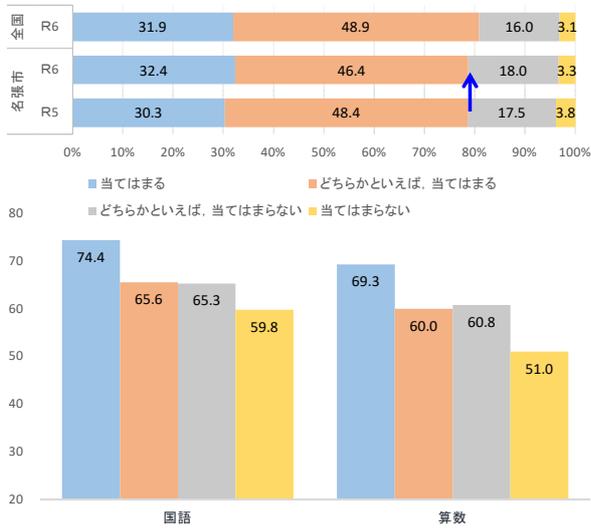
中学校



肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも増加しています。

⑨学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

小学校



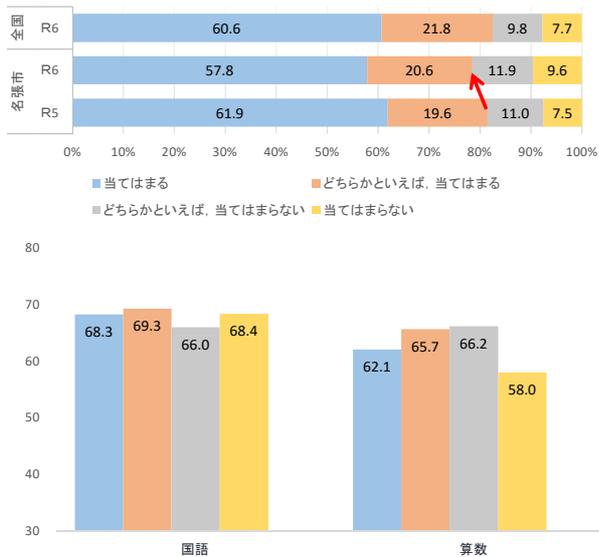
中学校



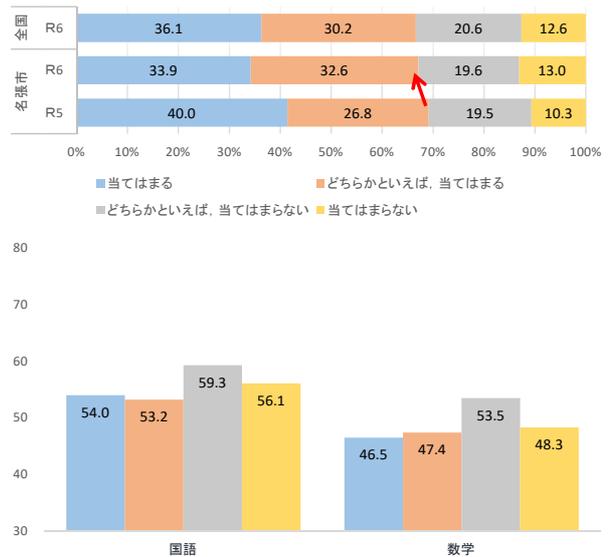
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校ともに増加しています。

⑩将来の夢や目標を持っていますか。

小学校



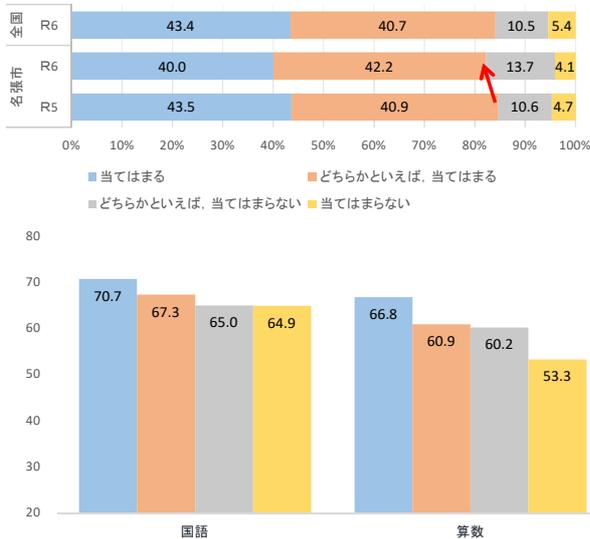
中学校



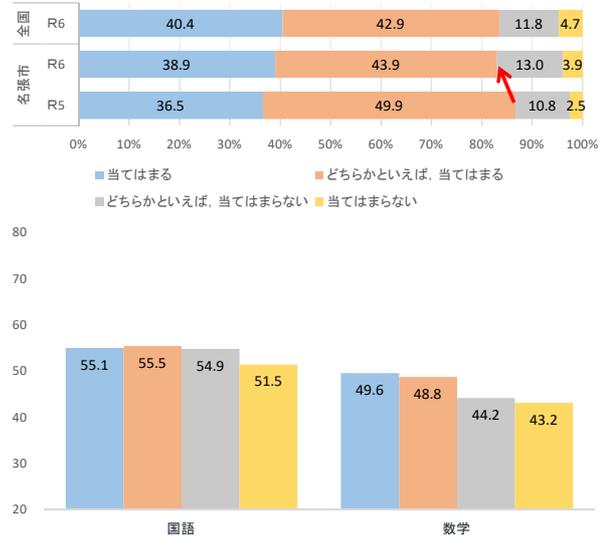
肯定的回答が全国と比べると、小学校は低く、中学校では高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校では減少しています。

⑪自分には、よいところがあると思いますか。

小学校



中学校



肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校ともに減少しています。

【学校教育に関する特徴的なこと】

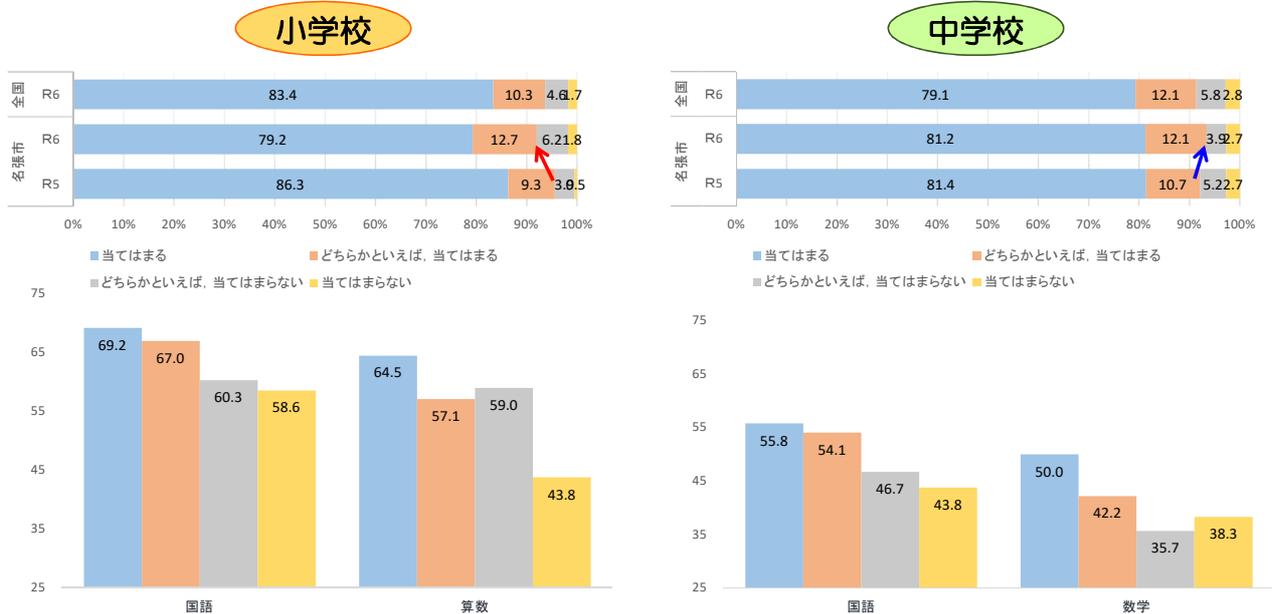
- ・国語、算数・数学、理科の教科に関して、「勉強は好きですか」の質問は、国語、算数・数学において小・中学校とも、肯定的な回答割合が全国平均と比べ高い。理科は、小・中学校とも全国平均と比べ低い。「授業の内容はよくわかりますか」の質問に対しては、国語、算数・数学において、肯定的な回答割合が全国平均より高い。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問に対して、全国平均と比べると、わずかに下回るが、小・中学校とも、前回調査と比べて肯定的な回答の割合が増加している。
- ・将来の夢や目標等の挑戦心や自己肯定感等に関する多くの項目で、小・中学校とも、前回調査と比べて肯定的な回答の割合が減少している。

各教科について、「授業内容はよくわかりますか。」の項目に関する本市の肯定的な回答割合は、約8割を越え、全国との比較においても高い結果がみられます。しかし、「よく分かる」という回答が全国を上回っていても、今回の教科調査の結果からは、日々の授業のあり方が問われます。子どもたちが分かる喜び、学ぶ楽しさをより一層実感できる授業づくりに努め、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていく必要があります。

また、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、肯定的な回答割合が全国平均よりも低くなっています。学校の教育活動全体を通じて、すべての児童生徒に対し、自己肯定感を高め、キャリア発達を促すキャリア教育等の充実をさらに図る必要があります。

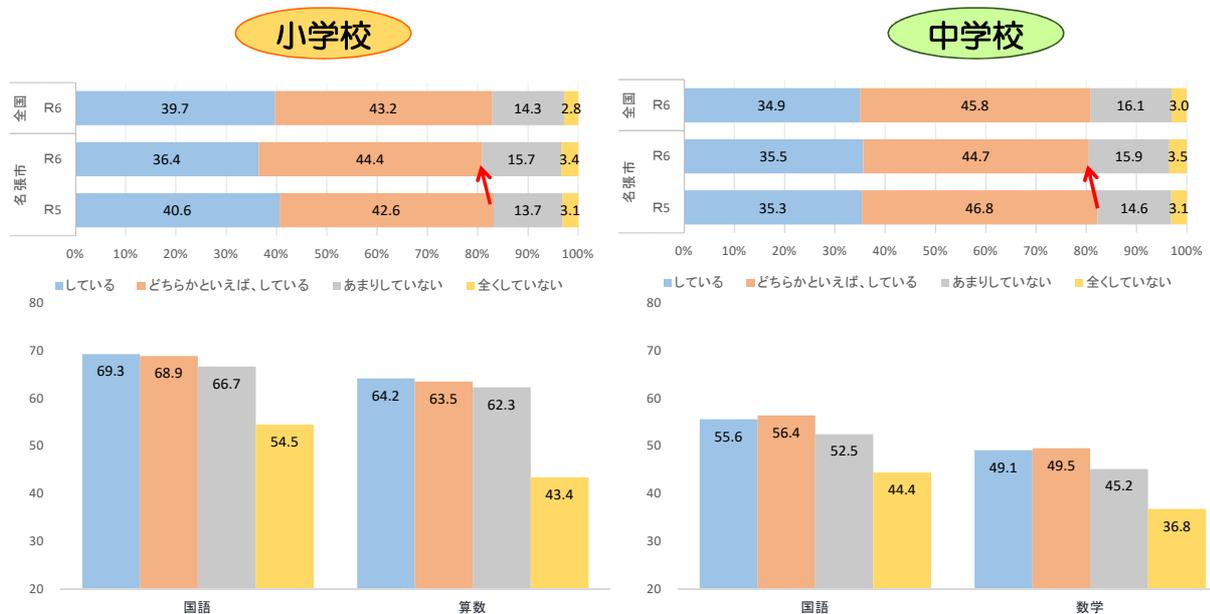
(2) 生活習慣に関すること

①朝食を毎日食べていますか。



肯定的回答が全国と比べると、小学校は低く、中学校は高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は減少し、中学校は増加しています。

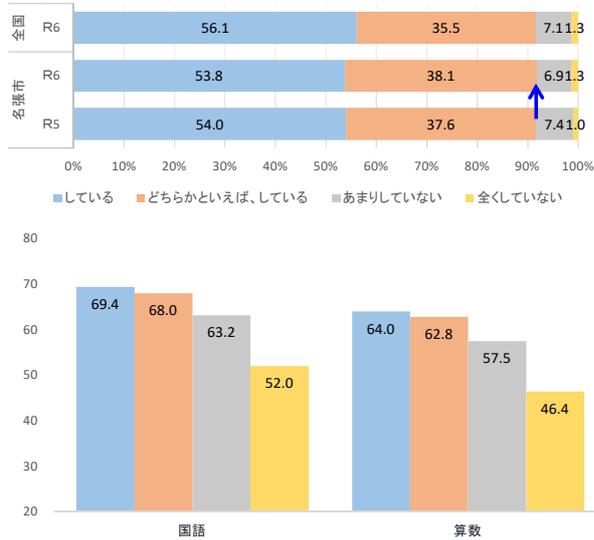
②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



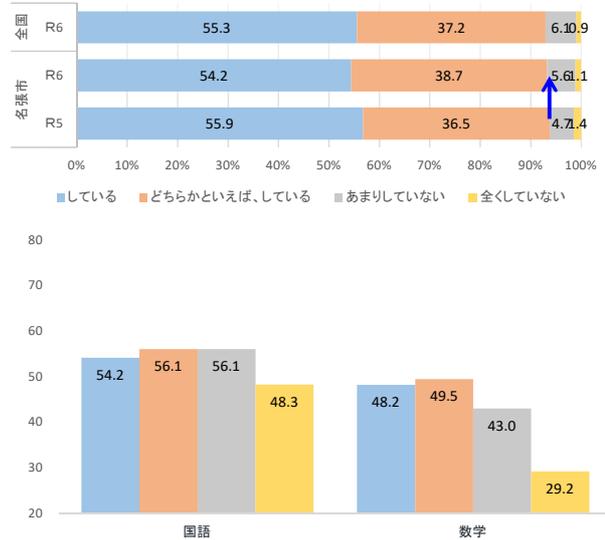
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも減少しています。

③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

小学校



中学校



肯定的な回答が全国と比べると、小学校で高く、中学校では低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも同等です。

【生活習慣で特徴的なこと】

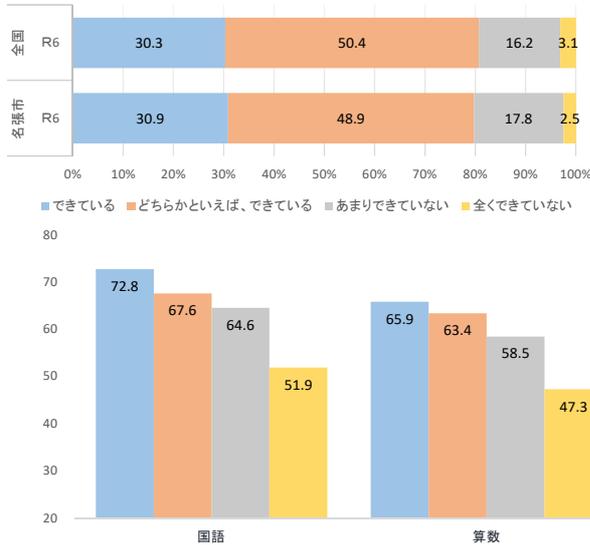
- ・「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して、肯定的な回答割合は、全国平均と比べ、小学校は低く、中学校は高い。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校で全国平均より高い。

「朝食の摂取」及び「同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。」のクロス集計をみると、「している」と回答した児童生徒と、「全くしていない」と回答した児童生徒との各教科の平均正答率を比較すると、小中学校とも大きな差が見られます。児童生徒の健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。こうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところです。学校と家庭がこれまで以上に連携を強化し、生活習慣の確立や生活リズムの向上を学習意欲の向上につなげる必要があります。

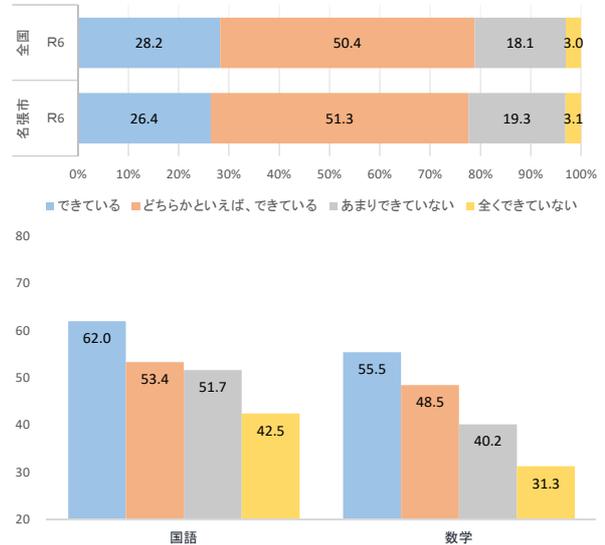
(3) 学習習慣等に関すること

①分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学校



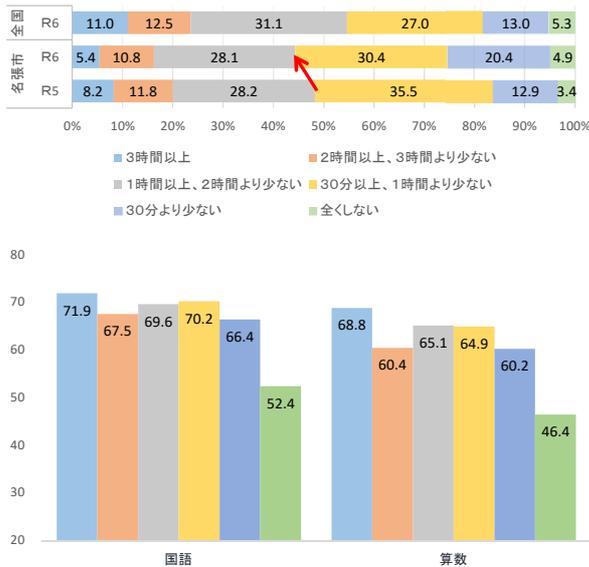
中学校



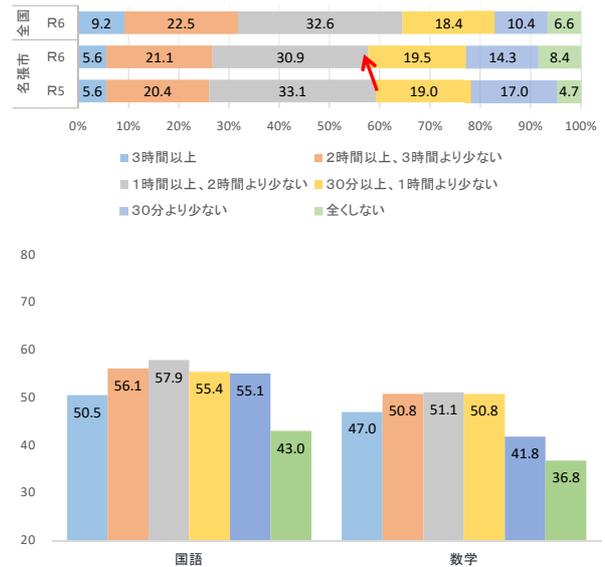
肯定的回答が、全国と比べると小・中学校とも低い結果がみられます。

②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学校



中学校

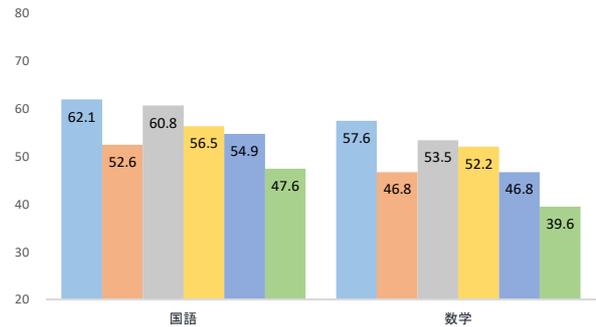
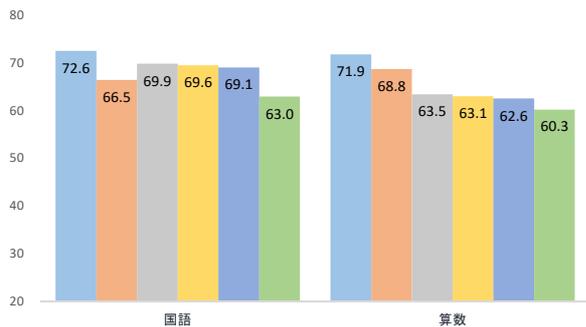
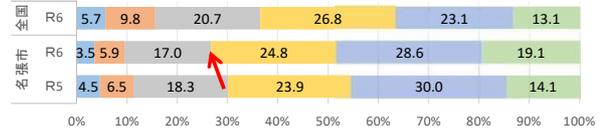
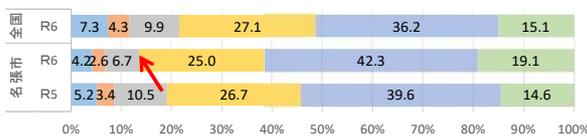


全国より低い傾向が続いています。前回調査と比べると、学習時間が（1時間以上）と回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに減少しています。

③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学校

中学校

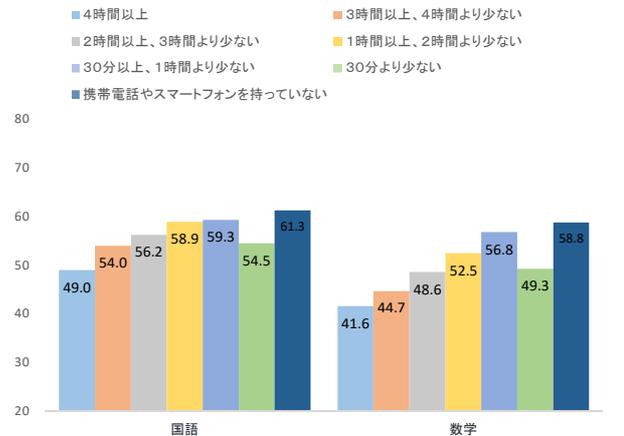
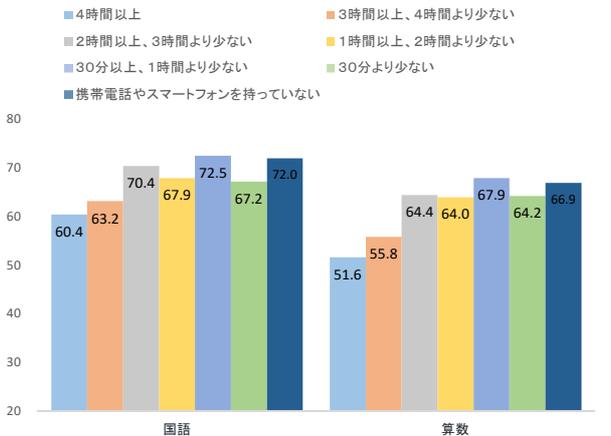
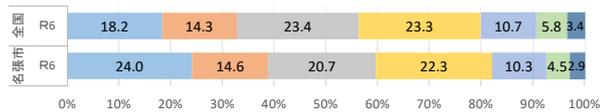
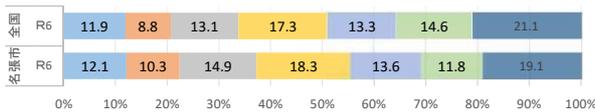


👉 全国より低い傾向が続いています。前回調査と比べると、学習時間が（1時間以上）と回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに減少しています。

④普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

小学校

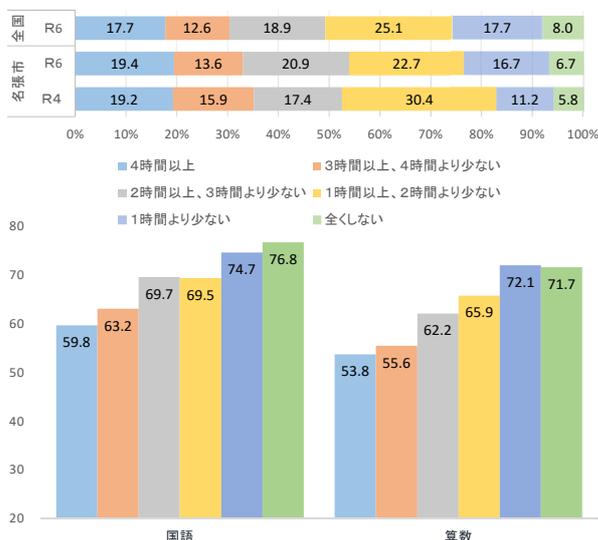
中学校



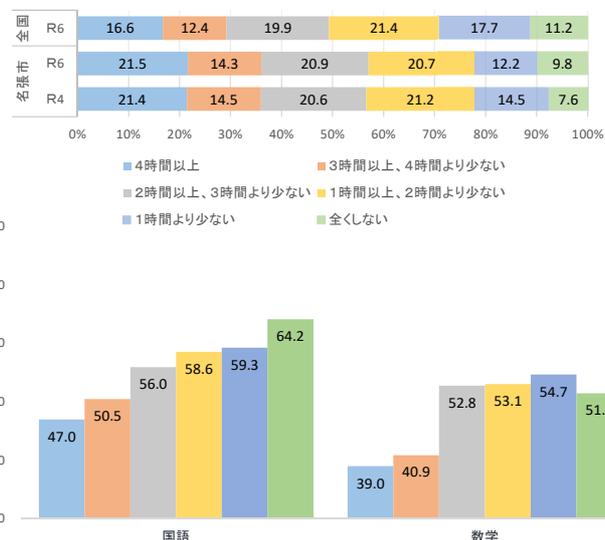
👉 全国と比べると小・中学校ともに、視聴時間が長い傾向がみられます。

⑤ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（携帯電話等を使ったゲームも含む）をしますか

小学校



中学校



👉 全国より高い傾向が続いています。2時間以上すると回答した割合が小学校で53.9パーセント、中学校で56.7パーセントで、前回調査より増加しています。

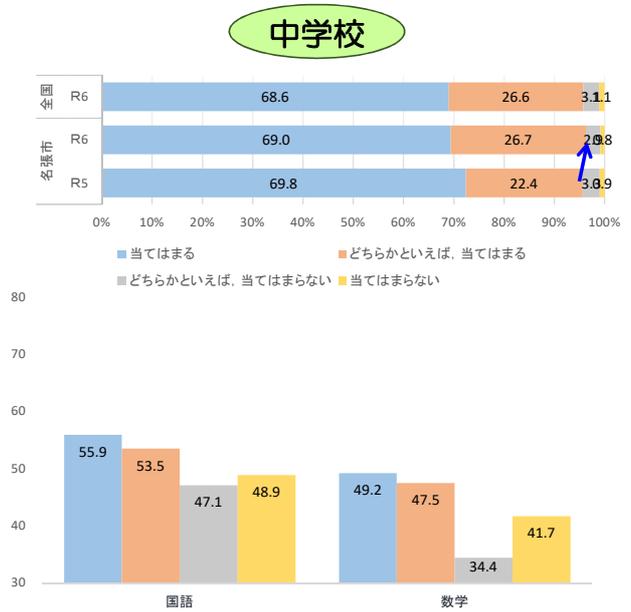
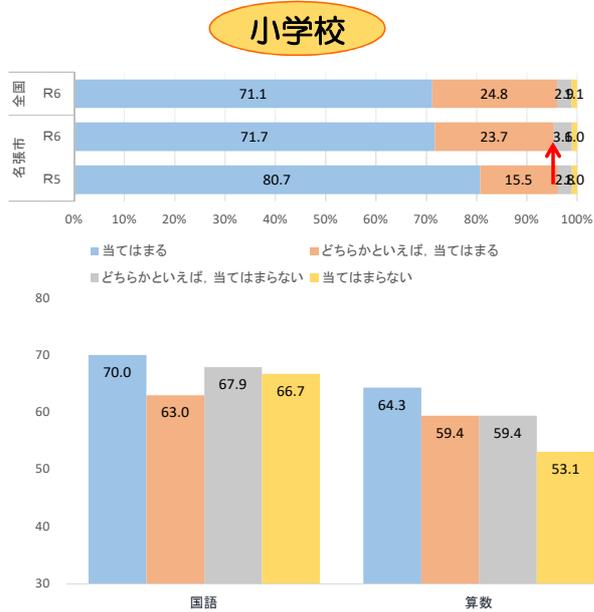
【学習習慣等について特徴的なこと】

- ・ 平日の家庭学習の時間について、「1時間以上」学習をする割合は、小・中学校では全国平均より低い。
- ・ 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴やテレビゲーム（携帯電話等を使ったゲームも含む）をする時間は、全国と比べ長い。

👉 本市の児童生徒の家庭における学習時間が、平日や休日とも全国平均に比べて短いという結果がみられます。各学校や中学校区では、改善に向けて様々な工夫が行われています。学習習慣等の定着を図るため、中学校の定期テストにあわせて、児童生徒が有効的な時間の使い方について考え、行動化する取組（自主学習、メディアに触れる機会を減らす等）も展開されてきました。学校と家庭が協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

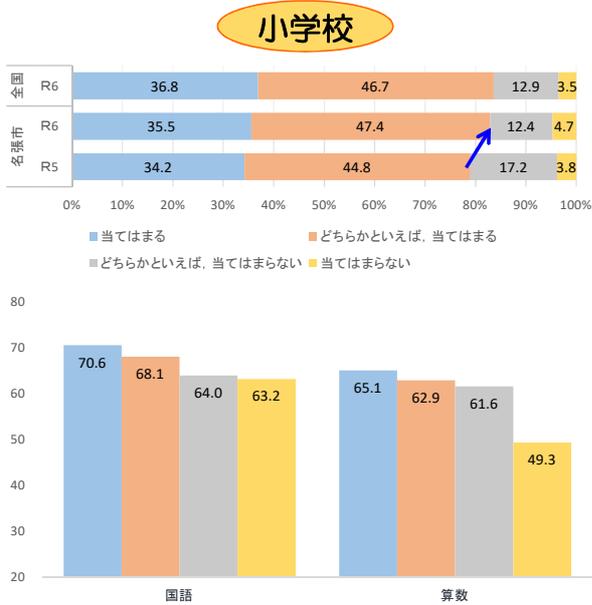
(4) 地域貢献・社会貢献に関すること

①人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



肯定的回答が、全国と比べると、小学校は低く、中学校は高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校が減少し、中学校は増加しています。

②地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



肯定的回答が、全国と比べると、小学校は低く、中学校は高い結果がみられます。前回調査と比べると小・中学校ともに増加しています。

【地域貢献・社会貢献について特徴的なこと】

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校で95.4パーセント、中学校で95.7パーセントと高い数値である。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に対する肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校がわずかに下回ったが、小・中学校とも前回調査と比べて増加している。

☞ 人の役に立つ人間になりたいと思う子どもが昨年に引き続き、9割を超え、また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う子どもが前回調査より増加していることから、ふるさと学習「なばり学」等により、自分の住んでいるふるさとへの興味・関心が高まっています。

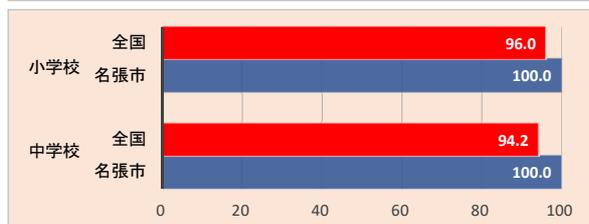
4 学校質問調査結果の特徴的な傾向と分析

「学校質問調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。

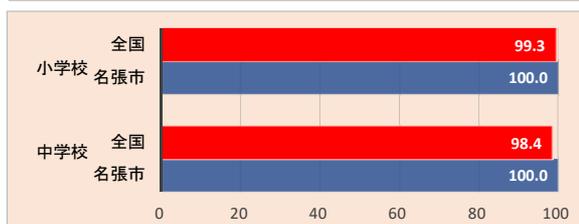
ここでは、「学校質問調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（％）

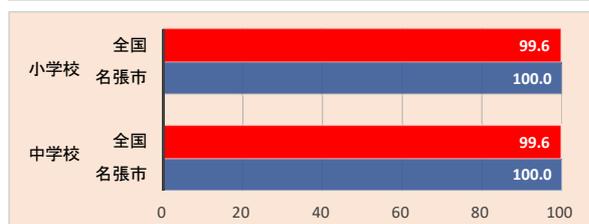
①言語活動について、国語科を要として、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



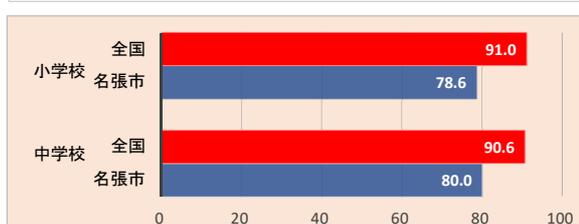
②学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか



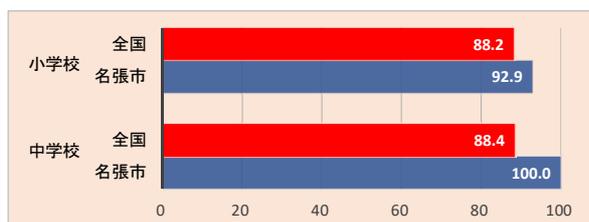
③各児童[生徒]の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか



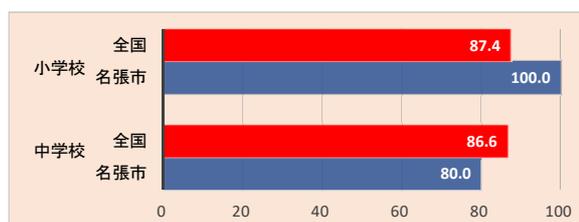
④今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか



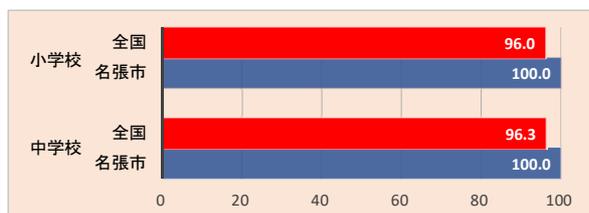
⑤調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



⑥調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



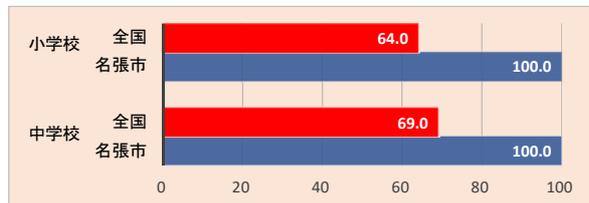
⑦調査対象学年の児童[生徒]に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童[生徒]自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



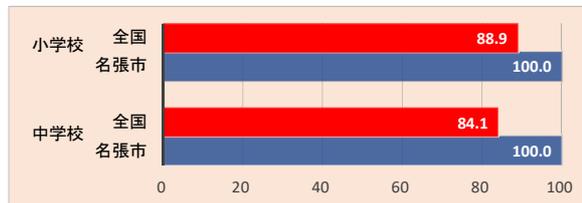
⑧教職員と調査対象学年の児童[生徒]がやりとりする場面では、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか(週3回以上)



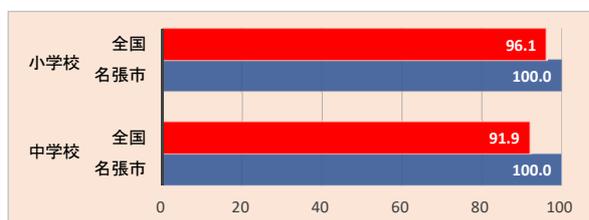
⑨前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか



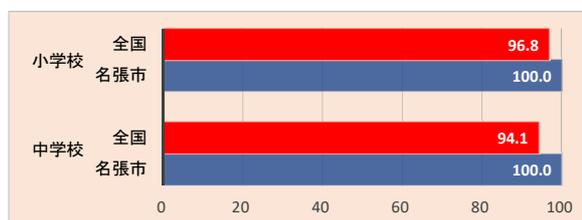
⑩コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



⑪調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



⑫令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



【学校質問調査について特徴的なこと】

- ・言語活動については、国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて、学校全体として取組が行われている。
- ・各児童生徒の様子を可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換が行われており、全国を上回っている。
- ・これまでの取組をそのまま踏襲し、新しい取組や提案をする教職員が少ない傾向が見られ、全国を下回っている。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む中で、習得・活用・探究という学びの過程を見通した指導方法の改善が小学校では進められているが、中学校ではさらに意識していく必要がある。
- ・ICT機器を、授業でどの程度活用できているかについては、小学校で85.7パーセント、中学校で100パーセントであり、全国平均を大きく上回っている。今後は、ICT機器等の効果的な活用について研究を進めていく必要がある。
- ・すべての中学校区において小中一貫教育が実施されていることもあり、近隣の小学校（中学校）と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、共通した取組については、全国より大幅に進んでいる。
- ・家庭学習の働きかけについては、各学校、又は中学校区において、「学習の手引」や自主学習のモデルを示すなど、様々な工夫を行っており、小中学校とも100パーセントであり、全国を上回っている。しかし、実際の家庭学習の時間では、小中学校とも全国を下回っている。実効性のある取組となるよう、引き続き、分析・検証し、改善を図る必要がある。

5 成果、課題と今後の取組について

名張市教育委員会では、令和3年度から「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画（令和3年3月策定）に基づき、「夢をはぐくみ 心豊かで 元気な 『ばりっ子』」をめざす子ども像に、さまざまな取組を進めているところです。

子どもたちの確かな学力の育成をめざし、子どもの心理的・身体的な発達段階に応じたきめ細やかな指導・支援を行うことにより、基礎的・基本的な「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育む取組を行っています。

全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことを目的としています。

本教育委員会や各学校では、本調査結果から子どもたちの学力や学習状況を把握・分析、検証し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に取り組み、子どもたちにとってわかる授業づくりを進めることにより、子どもたちの学習意欲と学力の向上をめざすとともに、子どもたちの生きる力を育て、中学卒業時には十分な学力を培うことをめざしています。

これまでの本市の小中学校の取組の結果、本年度の調査で以下のような成果が現われています。

○ 国語について、小学校では、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする」などの「書くこと」の領域、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」などの「話すこと・聞くこと」の領域において強みが見られました。中学校では、「情報の扱い方に関する事項」において、前回調査から改善がみられました。

算数・数学について、小学校では、「データの活用」の領域、中学校では、「データの活用」の領域内の与えられたデータから最頻値を求めることにおいて、強みが見られました。

○ 児童生徒質問調査において、国語、算数・数学の「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し肯定的な回答を行った児童生徒の割合は、80パーセントを越え、小中学校とも全国平均を上回りました。児童生徒の学習意欲の向上、教職員の指導改善が進んでいる成果といえます。

また、ICTの活用についても、経年的に全国平均より大幅に活用状況が高い結果が見られ、強みといえます。

しかし、同時に以下のような課題もあります。

○ 国語において、小学校では、漢字を文中で正しく使うなどの「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、中学校では、目的に応じて、必要な情報に着目して要約するなどの「読むこと」の領域について正答率が低く、弱みが見られます。

○ 算数・数学において、小学校では、球の直系の長さとお立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すなどの「図形」の領域、中学校でも、回転移動や筋道を立てて考え、証明するなどの「図形」の領域に弱みが見られます。

○ 質問調査では、「将来の夢や目標を持っていますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の質問項目について、小中学校ともに、全国平均より低くなっています。

○ 家庭生活では、学習時間が短い現状が本年度も見られます。自ら意欲的に家庭学習に取り組もうとする態度にまで高め、自律的学習へと結びつけるための工夫や手立てが求められます。

このような課題克服のため、「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向けた以下の取組を進めます。

＜学習指導要領を踏まえた授業改善＞

学習指導要領を踏まえ、習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡しなが、子どもたちの資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図っていく必要があります。

全国学調の調査問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討され、作成されています。結果を分析することで、今求められている力がどれだけ定着し、また、どのような課題があるかがみえてきます。すべての教員による指導方法の改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上につながる授業改善につなげていくことが重要です。

昨年度からすべての小学校で導入した教科担任制をさらに進め、小学校教員の専門性を高め、いくなかで、中学校とともに「学びの質」にこだわり、授業改善をめざします。

今年度、市教育委員会が作成した「授業づくりチェックシート」を活用し、若手教員をはじめ、教員が自らの授業を振り返り授業改善につなげるとともに、授業を見る視点としても活用していきます。中学校においては、毎年、教科ごとの悉皆研修として、「学力向上教科研修会」を実施していきます。

また、市教育委員会の指導主事が学校を訪問し、学力向上に向けた各学校の今後の取組の聞き取りや視点を持った授業参観等を実施し、具体的な指導・助言をするなどの学校支援を行います。

さらに、すべての中学校で県教育委員会とも連携を図りながら、指導主事を招聘した研修や授業参観を行うなど、学習指導要領を踏まえた授業改善を進めていきます。

加えて、これまで取り組んできた、めあての明示と振り返りのある授業、言語活動の充実、充実した家庭学習の「学力向上3本の矢」についても見直しを進め、わかる授業づくりのための改善を進めていきます。

＜小中一貫教育の推進＞

全国学調の学校質問調査での、「近隣等の学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問項目について、「よく行った」「どちらかといえば、行った」の回答が小中学校とも100パーセントとなりました。今後もさらに、中学校区のすべての教職員が9年間の学習等について具体的なイメージをもち、当該学年における指導の充実や指導方法の改善を図るとともに、校種の枠を越えた指導・教育を行うことにより、子どもたちの学びと育ちを保障し、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育てていきます。

同時に、自己有用感や人間関係を形成する力等の育成についても、キャリア教育等をはじめ、学校の教育活動全体を通じて育てるとともに、9年間の子どもの育ちと学びの系統性・連続性のある指導を一層進めていきます。

＜コミュニティ・スクールの推進・充実＞

各学校の学校運営協議会では、児童生徒や教職員と懇談をする機会を設けるなどの工夫がみられます。全国学調の学校質問調査において、「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか」の質問項目への肯定的な回答が小中学校とも100パーセントとなっており、充実に向けた取組が進められています。

一方で、同調査では、家庭学習の定着、読書の習慣化をはじめ、生活習慣や地域貢献、自己有用感等に課題がみられます。課題の改善に向けて、学校と家庭が課題を共有する中で、学校とPTAや学校運営協議会等の学校関係組織が意図を持って、具体的な行動プランを進めていけるよう、一層の連携・協働に努めていきます。

